



2015年度・平成27年度

くずは青葉幼稚園

学校評価・自己評価



2016年 4 月

学校法人山口学園

P	標 題
2	はじめに 幼稚園（学校）評価の目的・学校評価に関する規定
3	学校評価並びに自己評価結果の公開
3	第1節. 本園の教育目標並びに 2015年度・平成27年度教育指針の設定について
3	第2節. 平成27年度に重点的に取り組んだ教育内容
3	第3節. 自己評価項目の内容と達成及び取組の状況
4	第4節. 学校評価の総合的な評価結果
4	第5節. 今後取り組むべき課題
5	第6節. 財務状況
5	第7節. その他、特筆すべき事項 認定こども園への移行について
7	第8節. 本園の教育目標・教育指針 詳細
7	年長学年・5歳児
10	年中学年・4歳児
12	年少学年・3歳児
15	幼稚園全体・全学年
16	各学級 学級経営案

P	標 題
22	自己評価 詳細
22	A 教育方針・指導計画
24	B 健康
25	C 人間環境 D 環境
26	E 言葉
27	F 表現
28	G 家庭連携 H安全管理
30	I 学級運営
31	J 業務全般 K 研修と研究
32	幼稚園運営 自己評価
32	1. 幼稚園教育の基本方針と組織 2. 保育内容の確認
33	3. 研修と研究 4. 幼稚園機能の拡大
34	5. 諸法規の遵守
35	6. リスク対応 7. 適正な事務処理
36	研修内容の詳細
37	第9節. 学校関係者の評価

はじめに

本園は、開園以来、平成14年度までは、各学期末並びに年度末に教員の反省・評価等を記録し、次年度への実践と反省を活かした教育活動の資料、また教員の指導上のポイント等として活用としてきた。それは、実践に基づいた教務内容の充実を図るものと確認していたところである。然るにその反省記録は、園全体の教育方針・並びに指針等に基づいての反省ではあるが、教員一人一人の視点の違いや、教員経験年数等により認識の差異が生じるため、共通理解を図ることが教務会議での課題となっていた。

そこで、平成15年度より統一した評価基準を設定し、その基準に基づき「自己評価」を実施し、教育水準の質の向上を図ってきた所である。続いて平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられた。これを受け平成21年度より、「学校評価（並びに自己評価）」の公表（平成20年度版）を実施。以後、8年度分の学校評価（並びに自己評価）の公表を継続しているところである。内 自己評価内容の改編は、2回にわたり改訂した。本年度（平成27年度）においても「学校評価（自己評価）」を公開するものとする。（2016年4月公開）このことにより、私立幼稚園としての「学校評価」のねらい、併せて学校評価における指摘事項や意見を反映し、教育目標の達成できるよう努力研鑽に励むところである。

幼稚園（学校）評価の目的と学校評価に関する規定

学校評価については、学校教育法第42条（幼稚園については、第28条により準用）及び学校教育法施行規則第66条～第68条（幼稚園については、第39条により準用）により以下の項目を公開する。

- ・教職員による自己評価を行い、その結果を公表。
- ・学校関係者による評価を行うとともにその結果を公表するよう努める。
- ・自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者（学校法人山口学園理事会）に報告。

学校評価並びに自己評価結果の公開

第1節. 本園の教育目標並びに2015年度・平成27年度教育指針の設定について

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にした教育環境を調えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいろいろな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躰」を充分に行い、情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むことを目指し、努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指している。この趣旨並びに目的を建学の精神、「たくましく人間性ゆたかな子どもをめざす」の言葉で現している。

2015年度・平成27年度においては、それぞれの学年において、後ページに記載（7ページ以降に第1節 詳細）の教育目標（学年単位）を設定し、保育に努めた。また、その期ごと（1～3学期終了時）に学年の単位で評価会議、その内容を教員全員で反省会議を実施し、次学期向けての課題を学年を越えて確認した。

[2014年度よりの改編あり]

第2節. 平成27年度に重点的に取り組んだ教育内容

建学の精神に基づく「教育方針」のもと、さらに平成27年度教育目標（教育指針）を確立し、継続して「異年齢児による活動」の充実に努めた。異年齢児同士で活動する教育日数を調整し、その内容を充実させた。

また、昨年度に引き続き、従来の「文化祭・作品展」と称しての本園父母会主宰事業であるバザーを休止し「作品展」のみとし、単独事業とした。2年継続しての教務趣旨を実践し安定した「作品展」として位置付けることができた。広く保護者に園児の製作について鑑賞の場を充実させたこととなり、意義ある教育事業となった。

第3節. 自己評価項目の内容と達成及び取り組みの状況

本園は、平成15年度より教員全員の「自己評価」を実施している。〔経緯については「はじめに」2ページ掲載〕平成27年度においても、継続して実施した。教員は、従前通り学期毎に評価項目に沿って自己点検・自己評価を行った。これは、教師自らが指導や子どもとの関わり、並びに子ども同士の関わりの援助について省みて、本園教育内容のより充実を目指す趣旨とした。

以下にその「自己評価項目・評価の観点・評価の達成と取組状況」を公開する。

尚、「教員 自己評価・詳細」と「園長・主任 自己評価・幼稚園運営の自己評価・幼稚園管理に関する自己評価」に分類してこれを公開する。

22ページ以降、自己評価掲載

第4節. 学校評価の総合的な評価結果

「教員における自己評価と詳細、並びに園長・主任における自己評価」の総合的な評価は「BまたはA」とし、管理者を含め、教員全員が共通認識した。

尚、教員の安全管理面において保護者の不信感につながるような事態が数件、発生した。通園バスの園児の乗車ミス（通園バス乗車して降園すべきが園児乗車せずという事案等）、安全確認後の確実な園児引き渡し等 徹底した安全管理が求められることについて内部的に強化を図った。その他、教職員の経験年数により、評価項目の意識の差は起こりえるが、教員経験を積み重ねることによりその差異は解消されるものとみなし、総合的な評価を妥当なものと認識するものである。

年度当初（2015年度4月）に「建学の精神」加えて園長より「2015年度・教育指針」を基に、担任教諭が「学級経営案」、また、学年教諭間において、それぞれ「学年目標」を設定した。これにより、取りくむべき教育目標・運営目標について、全教職員が共通理解し目標とした。そして、教員それぞれが、学期末において、併せて日常的に自己評価を行い、取り組み状況を意識・確認したことにより、本園の教育内容が経常的に推進されているものと確認した

今後も継続して自己評価を行うことが重要であることを教員一同が共通理解し、努力研鑽に励む姿勢を位置づけることができた。

第5節. 今後取り組むべき課題

自己評価を行った各教員の総合判定として、記載の「学校評価・自己評価」としているが、今後は各項目の達成度をより高めるよう、具体的な対応やその具現化に向けて努力することを課題とした。但し、その具体的な対応についての文書化等は膨大な時間を必要とすることより、適宜 教育現場にての対応が求められることも事実である。教員の資質の向上についてより研鑽に励むことが重要と認識する。また、それぞれの領域（各項目）の教員同士の連携的な指導・援助が園児にとって重要であり、特に「人間関係・異年齢児活動」を重点的課題とすることを共通認識した。

幼稚園教育の本意とする「子育て支援・援助・指導」は、もちろんのこと併せて社会的状況を鑑み「子育て支援」の両面から、2012年度より預かり保育について「時間延長・幼稚園開園11時間」を実施している。幼児が長時間に及び幼稚園で生活することについて環境を整える必然を感じ、内容について協議、検討を重ねていたが、現行の「預かり保育教育内容」が、良好ではという認識するに至った。但し、今後もその保育内容について更なる充実に向けての研究も必要と考えている。

幼稚園教育活動における幼児の人間関係の中で「協同性＝友だち（子ども同士）と話し合う中でのトラブルや意見の違いを乗り越える力、さらに友だち（子ども）同士の活動や取り組みの中でのそれぞれの思いに気づく環境や指導と援助のあり方を見直し、それを見守る教員の姿勢、指導力と援助法、そして継続して取りくめる環境や家庭との連携の在り方について研究に励むことを課題とした。

尚、本園は平成26年夏にこれまでの特色ある、そして歴史と伝統のある幼児教育を守り、継続したいという思い、私学としての幼稚園の位置づけから、現行制度の学校法人・幼稚園として「子ども・子育て支援新制度・認定こども園」への移行に関して、当面移行しないことと英断した。

これは、新制度においては補助金制度の在り方や受け入れる園児の年齢等により、施設型給付を受ける幼稚園、認定こども園、私学助成を受ける現行のままの幼稚園とに分かれるが、いずれの園においても幼児教育の充実・発展を目指して取り組むことに変わりはない。本園はこれまで通りの園児受入れの方針を執り、施設利用のための市町村の認定は必要なく、保育を必要とするお子さんにはこれまで通り、預かり保育を行うなど、現行のままの私学・幼稚園として取り組むこととした。但し、今後においては新制度の研究を含め、より良い幼児教育を目指し、充実に向けての取り組みが必然と認識するところであり、今後の課題である。【次ページに特記有り】

第6節. 財務状況

平成27年度財務状況は、学費収入において平成26年度対比／学籍18名の園児数増加により、学費収入は増額となった。平成21年度より継続して改修工事を施行し、当該年度においての主な修繕費関係支出は、①西側駐車場の拡張改修工事、②園庭内の太陽電池時計の故障による新規時計設置、③放送設備の故障による新規入替一式、④カラー輪転機の新規購入、⑤その他となった。何れも経年劣化若しくは消耗による設備の改修修繕が必然となり、一部の設備は緊急要件となった。

支出の抑制については、諸経費の節約等をはじめ、電力の自由化に伴い、2016年12月より「出光グリーンパワー」より電力の供給を行い毎月約1割程度の節約が実現した。また、通園バスの車両入れ替えを年度末ではあるが、ニッサンキャラバン幼児専用車が日本財団より3月1日に寄贈となった。受益者負担は約800千円であり、概算約2200千円相当の寄贈となった。その他の詳細については「2015年度・事業報告書」に記載。

平成28年度は、65名の入園児を受付、学籍は10名程度の減少が見込まれることとなった。消費税率10%への改定などを控え、財務状況の方向性としては、厳しい状況となること予測される。さらに、納付金の改定について一考を要す時期となること予測するに至る。

平成27年度財務状況については、決算関係計算書類一式が調い次第、これを公開する。〔2016年5月予定〕
平成27年度の財務状況については、監査法人・公認会計士より適正に運営されていると認められた。

第7節. その他、特筆すべき事項

「認定こども園への移行について」

平成24年8月にできた法律「子ども・子育て関連3法」をもとに「子ども・子育て支援新制度」が、さまざまな課題が解決されないまま、平成27年4月からスタートした。この新制度をもとに、幼稚園、認定こども園、保育所の在り方が整備され、子育て支援のための大切な制度とされ、その目的は、子育ての負担を減らすこと、待機児童問題の解消、少子化に歯止めである。この制度で私立幼稚園は大きく分けると3つのタイプになり、どのタイプの幼稚園に通園するかを保護者の選択となる。一つは、新制度に移行しない私立幼稚園。新制度に移行する私立幼稚園。そして新制度の認定こども園となる。

これらの状況の中、本園は建学の精神のもと、これまでの特色付けてきた本園の歴史と伝統のある幼児教育を守り、継続したいという思い、「私学として、教育機関として」の幼稚園の位置づけから、現行制度の学校法人・私立幼稚園として継続することとした。

何故、新制度に移行しないか

新制度においては補助金制度の在り方や受け入れる園児の年齢等により、施設型給付を受ける幼稚園、認定こども園、私学助成を受ける現行のままの幼稚園とに分かれるが、いずれの幼稚園においても幼児教育の充実・発展を目指して取り組むことに変わりはない。然るに新制度においては、保育を必要とする幼児で施設利用のための2号認定を受けると原則として幼稚園に入園できず、保育所と同様、市町村による施設の斡旋が行われ、保護者が希望する施設に入れない場合がある。本園はこれまで通りの園児受入れの方針とし、施設利用のための市町村の認定は必要なく、保育を必要とする幼児にはこれまで通り、「預かり保育」を行うなど、現行のままの幼稚園として取り組むこととした。

認定こども園の「ねらい」は下記の3点に集約できる。この「ねらい」の視点・ポイントによる本園の分析と所見は以下の通りである。

- ① 幼保一元化による質の高い幼児期の学校教育・保育の提供
- ② 待機児童問題解消のための保育の量的拡大・確保
- ③ 地域の子ども・子育て支援の充実

①に関しては、総ての子どもに質の高い幼児教育を提供することは必然である。では、本園が実践している幼児教育の質を高めようとした場合、実践すべきことは「建学の精神拡大に向けて努力研鑽すること」「教育方針や指導方針の改善・充実」「教職員一人一人の保育力の向上」等である。決して「認定こども園への移行」により本園の幼児教育の質が高まるということではない。私立幼稚園・学校法人幼稚園のままであっても認定こども園であっても、実践する幼児教育の質を高めることは必要なことである。そのため、「本園の幼児教育の質を高める」ために「認定こども園へ移行」という理論はなりたたない。

また、子ども子育て新制度では現状の私立幼稚園運営と比較した場合、事務量が増大することが予想される。さらに、預かり保育の一時預かり事業への移行や公定価格の導入による保育料の変化等により、子ども及び保護者に与える影響が決して小さいとは考えられない。そのため、上記の問題による影響が限りなく小さいと判断することができない現時点での移行は、リスクが高いと考えられる。

さらに、子ども子育て新制度の移行により「私学の公共性と自主性」のバランスが崩れ、自主性が失われるのではないかと懸念もある。私学の自主性が失われるということは、前理事長・創立者である山口亨が幼稚園設立思考し、38年間という長きにわたりその建学の精神を拡大させてきた「もの」を「縮小化」ということ認識が生じる。それは即ち、設立・創立から現在までの本園の幼児教育を肯定できないということである。もちろん新制度において「私学の自主性・独自性」が保証されるべきであるが、現状では“何とも言えない”という観点が大きい事実がある。「本園の幼児教育の質を高める」ことは「建学の精神の拡大に向けて努力研鑽すること」である点と上記において述べた通りである。すなわち、本園の幼児教育の質を高めるところか低くする可能性すら秘めているという認識が過ぎる側面を持つと認識するところである。

②に関しては、当園においても早朝保育・延長保育をとりいれ、11時間保育を実施しており、保育所と比較しても遜色ない保育時間である。また、待機児童問題で主に問題となっているのは0歳児から2歳児の所謂、乳児期の子ども達である。残念ながら、本園には乳児保育の実績・ノウハウは無いのが実情である。そのため、今すぐに乳児保育を実施するということは、現実的には考えられない。つまり、幼保連携型は無論、幼稚園型認定こども園への移行を決断したとしても、保育の量の拡大には至らないということである。

③に関しては、地域の子ども・子育て支援の充実は、新制度下においてのみ可能というわけではない。現状の私立幼稚園でも可能である点と考える。園庭開放や未就園児教室等既に実施している。必要とされる、実施すべき地域の子ども・子育て支援とは何なのかという次元から考え、実践することが大切である点と考える。

平成26年初夏の時点において、上記のことを総て鑑みた場合、子ども・子育て新制度に移行することが必然とは考えられない。また、新制度がスタートした平成27年度においてこども園に意向した幼稚園の現状を聴くとき、同様にこども園移行の必然性が増すことはない点と認識した。

現状の私立幼稚園として地域の幼児教育、子育て・子育てに貢献していくことこそが、本園に求められる役割であり使命である点と考える。目先の補助金の増額に惑わされることなく、使命を果たす為にも「私立幼稚園・学校法人山口学園くずは青葉幼稚園」として存続するという平成26年初夏の英断は、今なお（平成28年3月現在）継続した認識である。

尚、今後の法令並びに内閣府・関係機関の動向、とりわけ枚方市及び近隣市町村の当該内容についての方針・施策等を十分に調査並びに研究を行い、冒頭の新制度のねらいの達成について努力することを特記する。

第8節. 本園の教育目標・教育指針 詳細

年長学年・5歳児

[学年の目標]

様々な活動に意欲を持ち、友だちと協力しながら主体的に取り組み、達成感や充実感を共有する。

[健康・生活習慣]

- 1期(4・5月) ◎新しい環境に慣れ安定して過ごす。
 - ◎生活習慣を見直すとともに、新しい生活の場所を知り、仕方を身につける。
 - ◎正しい挨拶の仕方を身につけ色々な人にすすんで行く。
 - ◎生活や活動の約束事を意識し、はじめをもって行動する。
 - 2期(6～8月) ◎人の話を聞く大切さを感じ、注意して聞き、内容を理解する。
 - ◎身体を動かす楽しさを感じ、戸外で伸び伸びとあそぶ。
 - ◎安全に気を付けて遊具や用具を正しく使う。
 - 3期(9～12月) ◎園生活での約束事を友だちと伝え合い、意識を高める。
 - ◎生活習慣を身につけ、自分で意識を高くもって意欲的に取り組む。
 - ◎病気の予防に関心を持ち、健康な生活の習慣を身につける。
 - 4期(1～3月) ◎身についたことを丁寧に行い、健康に気をつける。
 - ◎生活習慣や活動への見通しを持ち、友だちと助け合いながら自主的に取り組む。
- ・一日の生活の流れや行事の内容、流れ等について予め伝え、見通しを持って行動できるようにする。
 - ・友だち同士で見合いをしたり、教え合うことで意識を高め進んで行えるようにする。必要に応じ、繰り返し保育者が言葉がけたり確認し、習慣づけていく。
 - ・自分たちで整理整頓して過ごすことの心地よさを味わえるように、言葉掛ける。
 - ・最年長児であることに自覚が持てるよう話をし、生活態度や活動に取り組む姿勢で手本となる気持ちが持てるようにする。
 - ・製作時は、机の上を整理しながら活動する等、常に整理整頓を意識できるよう言葉がける。
 - ・子どもたちが、話に興味や関心を持って聞けるよう保育者は、抑揚をつけたり話す内容に応じて順序立てて話すなど伝え方を工夫する。
 - ・話を聞いて、感じたり、行動したりすることの大切さを知らせ、注意して聞こうとする意識を高める。
 - ・さまざまな運動用具を準備し、保育者が仕方やコツを伝えながら意欲的に取り組める環境を整える。
 - ・衣服調節や水分補給、手洗い、うがい、消毒を進んで行えるよう指導するとともに、伝染病やその他の病気について知り、健康への意識を高められるよう話をしていく。
 - ・友だちの様子に関心をもち、教えようとしていたり出来たことを共に喜ぶなどクラスの仲間としての意識がもてるよう話をする。
 - ・保育者が個々の様子を把握し配慮や指導を要することを見極め、保護者と連携をとりながら取り組んでいく。
 - ・活動内容を十分考慮し、生活リズムを整えられるようにする。
 - ・危険について意識を高められるよう話をし、必要であれば視覚的に伝えることで理解につなげる。
 - ・挨拶の大切さや気持ちよさに気付けるよう話をするとともに、正しい挨拶の仕方を知らせる。保育者が見本となり、繰り返し伝えていく。

【人間関係】

- 1期（4・5月）◎友だちや保育者に親しみをもち、進んで関わろうとする。
◎年長児としての自覚をもち、小さな友だちの世話を意欲的に行う。
◎集団遊びに関心を持ち、ルールを伝え合いながら楽しく取り組む。
 - 2期（6～8月）◎友だちと遊ぶ中で、色々な考えや思いがあることに気づき、受け止めようとする
◎気の合う友だちと一緒に考えを出し合いながら、遊びを進める。
◎集団遊びの中で勝敗がつく面白さや悔しさを共感しあい、繰り返し取り組もうとする。
 - 3期（9～12月）◎ひとつの目標に向かって友だちと協力しながら、達成する喜びや楽しさを味わう。
◎目的をもってあそび、実現するために繰り返し挑戦するとともに、みんなで教え合ったり遊び方を考えようとする。
◎相手の気持ちを考え、言葉を選んだり、関わり方を自分なりに工夫し、積極的に関わろうとする。
 - 4期（1～3月）◎友だちの良いところを認め合い、一緒に活動する楽しさを味わう。
◎自分たちが行ってきたことに自信を持ち、色々な人と積極的に関わろうとする。
- ・個々の内面を理解し、一人ひとりに寄り添った関わりをすることを心がけ、保育者との信頼関係を築けるようにする。
 - ・遊びの時間を十分に確保していくことで友だちと関わる時間を多く持てるようにする。子どもの遊びの様子を十分に把握できるようにする。
 - ・日頃から年下の友だちのことを意識し、関わりが持てるよう言葉がける機会をつくっていく。関わり方については自分たちで気づいたり考えながら関わられるよう話をしていく。
 - ・年下の友だちへ関わろうとする気持ちを認め、自信につなげる。
 - ・他学年の様子や活動の内容について定期的に話をしたり、実際に見ることで関心が持てるようにする。
 - ・トラブルが起こった時には、子ども同士で解決していけるよう見守ったり、必要な言葉を具体的に知らせ援助していく。必要であればクラスや学年全体で考えられるよう機会を設ける。
 - ・友だちの表情に気付いたり気持ちを考えられるよう話をし、色々な角度から友だちを見ようとする気持ちを持てるようにしていく。
 - ・様々な活動を通し、友だちと力を合わせることの大切さを保育者も共感し、意欲につなげ達成感を味わえるようにする。一人ひとりの頑張りを認め自信につなげながら取り組んでいく。
 - ・友だちの良いところを発表する機会を設け、互いを認め合えるようにする。
 - ・色々な人の支えが合っていることを具体的な場面をあげながら話し、色々な人に思いやりや感謝の気持ちが持てるようにする。
 - ・個々の考えや思いを認め、保育者も一緒にじっくり考える時間を持つことで、自分で考え「やってみよう」という気持ちにつなげる。
 - ・友だち同士、認め合ったり励まし合える雰囲気作りをすることで苦手意識のある子どもも楽しみながら意欲的に取り組もうとする。
 - ・異年齢活動について振り返ったり、年下の友だちと関わる中で経験したことや感じたことを伝え合う機会をつくり、一人ひとりの異年齢児への意識を高める。

【環境・遊び・自然・数量】

- 1期（4・5月）◎身近な動植物に興味関心を持ち、観察したり面白さや美しさに気付くとともに世話をしたり大切に思う気持ちを持つ。
◎物の活用の仕方やその物の必要性を知り、大切にする。
 - 2期（6～8月）◎栽培物の世話を通し、植物の生長に関心を持ったり、収穫の喜びを味わう。
◎砂やどろんこ、水遊びなどの活動の中でそのものの性質に気づき工夫して遊ぶ。
◎友だちとの距離感や間隔の取り方への意識を高める。
◎生活の中で、前後左右、遠近等の位置の違いや、時刻・時間などに興味や関心を持つ。
 - 3期（9～12月）◎身近な遊具や用具に興味を持って関わり、考えたり試したりしながら工夫して遊ぶ。
◎日常生活の中で、数量や図形に感心を持つ。
◎自然物に関心を持ち、素材の感触や性質に気付き、遊びに取り入れようとする。
 - 4期（1～3月）◎冬の事象に関心を持ち、それを取り入れて遊んだり、動植物の様子から春の訪れに興味や関心を持つ。
- ・栽培物の生長に興味を持てるよう、子ども達と定期的に観察する機会をつくると共に、保育者自身が小さな変化にも気づき話をしていく。
 - ・栽培物の世話を毎日することの大切さを知らせ、進んで行えるようにする。
 - ・保育者自身、物を大切に扱い見本となる。
 - ・物の使い方の工夫やその物の必要性について、必要に応じ自分で考えたり試して気が付けるよう見守る。

- ・教材（折り紙、画用紙等）や玩具など、工夫の仕方で様々な活用法があることを知らせ、物への関わりを自分たちで発展させて物を大切に作る気持ちにつなげていく。
- ・整列、移動、円をつくるなどには、友だちとの間隔について意識ができるよう言葉掛ける。
- ・遊具や用具に十分関わられるよう、環境を整える。時には、友だちが工夫して遊んでいることに気づけるよう言葉がけたり、保育者自らが工夫の仕方を示し、色々な物に興味を持って関わる機会をつくる。
- ・自然物を製作に取り入れたり、畑や裏山などを見に行く機会を設け、季節を感じられるようにする
- ・保育者自身も季節の事象に関心を持ち、季節の移り変わりに子どもたちが気付けるよう言葉がけていく。
- ・ワークブックのページや内容を一緒に読んだり、生活の中で時計を活用するなどし、文字や数字に関心を持てるようにする。
- ・科学あそびを通し、比べたり、数えたり、遊びながら興味を持てるようにする。
- ・体操や表現あそびの際には、左右を意識できるように言葉がけたり、友だちとの間隔についても知らせていく
- ・色々な事象の美しさ（植物、色、整頓など）に気付けるよう話をする。
- ・「不思議だな」「何だろう」という疑問をもち、考える力を育てる。

【言葉】

- 1期（4・5月）◎自分の思いや考えを相手にわかるよう言葉で伝える。
◎話しかけや問いかけにしっかりと返事をし、行動したり自分の思いを伝えようとする。
 - 2期（6～8月）◎人の話に関心を持ち、最後まで注意して聞こうとする。
 - 3期（9～12月）◎絵本や紙芝居に親しみ、興味を持って聞いたり読んだりし、想像する楽しさを味わう。
◎遊びの中で感じたことや考えたことを言葉で伝えるときに友だちのことを認めたり、励ます声掛けを行う。
 - 4期（1～3月）◎人の言葉をよく聞き、自分の考えや経験したことを話し、伝え合う喜びを味わう。
◎絵本や物語などに親しみ、友だちや保育者と心を通わせる。
- ・友だちや保育者、様々な人との関わりの中で、必要な挨拶やことばを使ってやりとりが出来るよう、知らせていく。
 - ・挨拶は保育者が率先して行う。挨拶の大切さや気持ちよさに気付けるよう話をする。
 - ・友だちとの関わりの中で、嫌なことや困ったことがある時に、自分の気持ちを言葉で伝えられるよう、その都度繰り返し話をするとともに必要な言葉を具体的に知らせていく。
 - ・聞く方も最後まで相手の話を聞く気持ちが持てるよう指導していく。
 - ・友だちとの関わりの中で、ぶつかり合った時でも、自分たちで解決できるよう見守る機会をつくっていく。
 - ・絵本や紙芝居の読み聞かせの時間や自由に選び本を読む時間を確保し、色々な物語に触れられるようにする。
 - ・物語を通し、感じたことや想像したことを伝え合う機会を設ける。
 - ・思っていることを最後まで丁寧に話すことが出来るよう指導していく。
 - ・英語指導を通し、経験したことや覚えたことを、日常生活や活動に取り入れ、楽しんで行えるようにする
 - ・自分の感じたことや経験したことなどを発表する場を多く設ける。
 - ・親しみのある友だちに対しても名前を丁寧に呼んだり、言葉遣いに気を付けられるようにする。

【表現】

- 1期（4・5月）◎感じたことを自由に描いたり、作ることで表現する楽しさを味わう。
◎色々な楽器に興味を持ち、簡単な合奏を楽しむ。
 - 2期（6～8月）◎色々な歌に親しみ、歌詞やその世界を思い浮かべながら心を込めて歌う。
 - 3期（9～12月）◎曲やリズムに合わせ、全身を使って伸び伸びと表現する楽しさを味わう。
◎楽器の音色や特徴、曲調に気付きながら演奏する。
◎感じたことや想像したこと、体験したことをイメージに合う素材や用具を用いて表現する。
 - 4期（1～3月）◎劇遊びを通して、自分のイメージを豊かにし、動きや言葉、表情で表現したり演じて遊ぶ楽しさを味わう。
- ・年間を通して鉄琴、木琴、鍵盤ハーモニカ、打楽器に触れる機会を設け、演奏する楽しさを味わうようにすると共に、日頃から触れられるよう環境を整えておく。
 - ・歌は、歌詞の意味を伝え、気持ちを込めて歌うように指導する。
 - ・歌や楽器の取り組みでは、個々の様子を把握し、個々に合わせた指導を行い自信につなげていく。
 - ・自由に絵を描いたり、ある形から連想して絵を描く等の機会を持ち、イメージを豊かにし、伸び伸びと表現できるようにしていく。
 - ・リズム表現では、子ども達が興味を持ち伸び伸びと楽しめるよう題材（曲、踊り）選びを工夫する。
 - ・製作では、色々な素材や技法を取り入れていく。
 - ・色々な楽器や素材に子ども達が自由に触れられる環境を整えておくようにする。
 - ・劇遊びは子ども達の意見を大切にし取り入れていくことで、より意欲を高め楽しさを感じられるようにする。
 - ・歌う時の姿勢や口のあけ方なども意識できるように言葉掛けていく。
 - ・自分のイメージや作品を発表し合う機会を多く持つ。

【遊び・全身運動】 【造形・音楽リズム・自然】 chart略

年中学年・4歳児**[学年の目標]**

思いやりの気持ちを持ち、友だちとの関わりを深めながら活動や遊びの中で自分の力を発揮し意欲的に取り組む。

[健康・生活習慣]

- 1期（4・5月）◎園生活の仕方がわかり見通しをもって自分の出来ることを進んでしようとする。
 - ◎手洗い・うがい・消毒を進んで行き、健康への意識を高める。
 - ◎安全な生活の仕方を知り、約束事を守ろうとする。
 - ◎戸外で身体を動かす心地良さを感じ自ら身体を動かそうとする。
 - ◎気持ちの良い挨拶や返事を進んで行う。
- 2期（6～8月）◎夏の生活の仕方を知り自ら進んで行き、身につける。
 - ◎園生活に見通しを持ち、自分なりにけじめを持って行動しようとする。
 - ◎安全について意識を高め、災害時の行動の仕方を考え気をつけようとする。
- 3期（9～12月）◎生活習慣を見直し、身についたことを継続して行う大切さに気付き、丁寧に取り組む。
 - ◎色々な遊具や用具を使い、戸外でみんなと一緒に身体を動かすことを楽しむ。
- 4期（1～3月）◎身についたことを意欲的に行い、自信をもって取り組む中で、進級に期待を持つ。
 - ◎手洗い、うがいを進んで行ない病気の予防について関心を持ち進んで行う。

- ・園生活で習慣づいていることを子どもたちと確認しながら、見直す時間をつくっていき、自分でできることは自分でできるようにしていく。
- ・出来たことを認め、自信を持てるようにする。
- ・手洗いやうがい、消毒、衣服調節、水分補給、排泄の仕方（和式トイレ・制ズボン着用での仕方）など進んで行えるように言葉がけ気付けていく。また、出来ているか保育者も十分に把握し、指導していく。整理整頓、身だしなみをととのえる。
- ・集団の中の一人としての自覚を持ち、友だちとの生活のペースを合わせながら、行動する意識が持てるようにしていく。
- ・けじめをもって話が聞けるよう、姿勢を正してから話し始めるとともに返事の大切さも伝え、話し方や導入も工夫する。
- ・話の内容を理解し、場に応じた返答が出来るよう指導する。
- ・日頃から正しい遊具の使い方や遊び方を伝えるとともに、みんなで活動する中で身体を思いっきり動かして遊ぶ楽しさを感じられるよう保育者も心地良さを共有していく。
- ・交通安全指導や避難訓練を通して、安全な行動を身につけ、機敏に行動できるよう日頃から話を聞いてすぐ行動に移せるよう指導していく。
- ・サーキットや体育指導で取り組んだ内容を日頃から取り組めるように、園庭に体育用具を設置し環境作りを行うことで挑戦する気持ちを育む。
- ・順番を守ることや、並び方（間隔をあける、真っ直ぐ並び）保育室や廊下の歩き方や階段の使い方（右側通行）も指導し、安全に過ごすこと、怪我を防ぐことが身につくようにする。
- ・時間に余裕を持つとともに、静と動のバランスをとり、子ども達が落ちついて行動できるようにする。

[人間関係]

- 1期（4・5月）◎新しい友だちや保育者に親しみ、一緒に過ごすことの喜びを味わう。
 - ◎友だちの思いを表情や言葉から汲み取り行動しようとする。
 - 2期（6～8月）◎好きな遊びを通して、友だちの個性や良い所に気付き、やりとりを楽しみながら遊びこむ。
 - ◎異年齢や学年の友だちに親しみを持ち、触れ合いながら遊ぶことを楽しむ。
 - 3期（9～12月）◎友だちの思いを受け止めながら自分の思いも相手にわかるように伝えようとする。
 - ◎クラスの友だちと一つのことに取り組む楽しさを味わう中で友だちの大切さを感じ、クラス意識を高める。
 - 4期（1～3月）◎活動や遊びの中で友だちと一緒に物事をすすめたり、解決しようとする。
 - ◎年下の友だちに思いやりの気持ちを持って関わろうとする。
- ・保育者は、一人ひとりの気持ちを受け止め、安心できるよう信頼関係をつくっていく。
 - ・トラブルでの仲立ちとなる際は、言葉で思いを伝え合ったり、受け入れることの大切さを伝えていく。様子を見ながら必要な言葉を知らせ見守り、自分たちで解決する力を育む。
 - ・好きな遊びを見つけ、じっくり取り組める場所や時間を確保する。個々での遊びに取り組める時間を設けることで、友だちとの関わりを深められるようにする。遊びが広がるように保育者が仲立ちとなったり、リーダー的存在の子どもを遊びの中心におくなどする。
 - ・集団あそびにも積極的に取り組めるようにし、クラスや学年の友だちとの関わりを深める。

- ・異年齢児と関わる時間を設け、具体的な関わり方や言葉掛けの仕方を知らせ、思いやりを持って関われるようにする。〔年少児に着替えを教えたり、園での約束事を知らせるようにすることで自らの意識向上にもつなげる〕〔年長児と関わる中で教えてもらう経験から憧れの気持ちを持ち、やってみようとする思いにつなげる〕〔クラスの友だちとの関わり方につなげる〕
- ・当番活動や自分の感じたことや思ったこと、作品を発表する機会を設け、相手に伝わる伝え方に気付けるようにし、自らも話を聞く大切さに気付けるようにする。
- ・学年での活動や横割り活動も取り入れ、色々な友だちとの関わりを深められるようにする。また、保育者も全体の様子を把握できるようにし共通理解を図る。
- ・友だちに興味を持てるように、友だちの頑張りや良いところに気付き、認め合えるよう保育者も率先して言葉掛ける。

〔環境・遊び〕

- 1期（4・5月）◎季節の植物や生き物に気付き、興味や関心を持つ。
◎保育室の整理整頓、おもちゃの片付けなど進んで行ない最後まで気持ちよく過ごせる環境を整えようとする。
◎ものを大切にする気持ちを持ち、丁寧に扱う。
 - 2期（6～8月）◎水や泥、砂に触れて夏ならではの遊びを十分に楽しむ。
◎野菜の栽培を通し、世話をすることで生長する様子に感動や期待を持つ。
 - 3期（9～12月）◎季節の変化に気付き、植物や果物の名前や特徴を知り、興味を持つ。
◎色々な活動（廃材遊び、楽器遊び等）を通して、物の性質や特徴を知り、興味や関心を持って取り入れて遊ぼうとする。
 - 4期（1～3月）◎自分なりの遊びのイメージや目標を持ち、友だちと共有しながら継続して取り組む。
◎友だちと意見を出しあい、工夫しながら遊びを発展させ、役割分担をしながら遊びを進めようとする。
- ・裏山（自然観察園）散策や市民の森公園散策を通して、自然物や季節の移り変わりに気付き、親しめるようにする。
 - ・子ども達が、興味を持っているものを保育者も把握し、環境をととのえて遊びを充実させていく。
 - ・自然物等を使って遊ぶ時間を十分に確保し、その中で工夫したり物を大切にする気持ちを育てる。
 - ・園庭に咲いている植物や虫に興味・関心を持てるよう図鑑や絵本をみれるよう環境を整える。また、今まで世話してきたチューリップが咲いたことに気付けるよう言葉掛ける。
 - ・屋上や戸外で食事をする機会を設け、戸外で過ごす心地良さを味わえるようにする。
 - ・水や泥の感触を味わえるようにするとともに取り入れながら全身をつかう遊びを伝える。
 - ・水に慣れるよう年少時から取り組んだフープくぐりや列車ごっこ遊び、自然に水と親しめるような遊びに取り組んでいく。
 - ・当番活動の中で整理整頓を呼びかけるとともに進んで行えるよう指導していく。（トイレのスリッパ・おもちゃ箱・本棚・かばんの片付け方・身だしなみ等を確認する）
 - ・日付や天気子ども達と毎日確認し、正しい数字の読み方を覚え、日々の変化に興味を、持てるように指導していく。
 - ・野菜の生長を見たり、収穫し食することで食物への関心をもてるようにする。
 - ・伝承遊びや集団遊びを取り入れ、自分たちでルールを考えたり遊びをすすめていく力を育む。
 - ・運動用具や縄跳びに継続して取り組む中で、挑戦したり、繰り返し取り組む大切さを感じられるようにする。
みんなの前で練習の成果を発揮できる場も設け、更なる意欲につなげる。
 - ・みんなで使うものや、自分のものを大切に扱えるよう言葉掛け、意識ができるようにしていく。

〔言葉〕

- 1期（4・5月）◎経験し感じたことを自分なりの言葉で表現しようとする。
◎保育者や友だちに進んで挨拶や返事をする。
◎絵本や物語などに親しみ、想像しながら聞く楽しさを味わう。
 - 2期（6～8月）◎人の話を興味を持って聞き、共感したことを言葉で伝え合う楽しさを味わう。
◎正しい言葉の使い方を身につけ優しく伝えようとする。
 - 3期（9～12月）◎友だちの頑張る姿や良いところに気付き、認め合い伝え合う喜びを味わう。
◎色々な曲を歌い、歌詞の意味を理解し感情を込めて歌う。
 - 4期（1～3月）◎友だちとの言葉のやりとりのおもしろさを味わう。
◎クラスや異年齢の友だちに思いやりを持って関わり、気づいた事や感じたことを伝え合う。
- ・クラス内で発表し合える機会を作り、友だちの話に興味を持つとともに感じたことや経験したことを自分の言葉でわかりやすく伝えられるように援助していく。また、相手が理解できているか、気かけながら会話を進めていけるようにする。

- ・日々の活動で子どもたちが努力していることに保育者が気づき、言葉かけることで子ども達も認め合えるようにしていく。
- ・日常生活で必要な挨拶が気持ちよく行えるよう指導し、返事をする事の大切さに気付けるよう話をしている。
- ・バス、徒歩通園での登降時の挨拶についても継続して指導を行う。
- ・互いの気持ちを受け止められるように場面に応じた仲立ちをし、気持ちの表し方や伝え方に自ら気付けるようにしていく。
- ・正しい言葉の使い方や、丁寧な言い回しを伝えていく。
- ・歌詞の意味を知らせ情景を思い浮かべながら、気持ちを込められるよう指導する。
- ・読みきかせや素話をするときは、声の強弱等に気をつけ子ども達がイメージを膨らませ聞けるようにする。
- ・様々な活動の中で遊びを発展できるよう具体的な言葉や関わり方を知らせる。

【表現】

- 1期（4・5月）◎身体を動かして遊んだり、音や色等さまざまなことを感じながら遊ぶ。
◎経験したことを思い浮かべながら表現しようとする。
◎リズム遊びを通して、身体を動かし伸び伸びと表現する。
 - 2期（6～8月）◎楽器の音色、特徴や曲調に気付きながら演奏する。
◎リズム遊びを通して、力の加減や身体の動かし方を身につけ、伸び伸びと表現する。
 - 3期（9～12月）◎友だちと音やリズム、動きを揃えて表現する楽しさを味わう。
◎イメージを膨らませ自分なりに伸び伸びと表現する。
◎クラスの友だちとひとつのものをづくりあげたり、表現する楽しさを味わう。
 - 4期（1～3月）◎物語をイメージして役になりきり表現し友だちの良いところを取り入れたり工夫しながら取り組もうとする。
◎感じたことを様々な方法で表現する楽しさを味わう。
- ・さまざまな素材や表現に触れ、工夫しながら表現できるよう提供していく。また、色々な素材や用具を目的に合わせて選べるように指導していく。
 - ・話を聞いて自分なりにイメージして言葉や身体で表現する機会をつくる。また、保育者も子どもの言葉や表現を引き出せるように言葉掛けていく。
 - ・導入の仕方を十分に考慮し、イメージや意欲を高められるようにする。
 - ・年少時に引き続き、リズム遊びを取り入れ、身体全体で表現したり、音楽リズムに合わせて表現する楽しさを味わえるようにする。また、少人数グループや全員で行える活動も取り入れ、友だちと揃えたり触れ合えるようにする。その中で、力の加減や間隔の取り方、細かい身体の動かし方等も身につくようにする。
 - ・楽器に親しんで使い慣れるようにするとともに簡単なリズム打ちを楽しんで行えるよう指導する。リズムが揃ったり音が重なり合う美しさにも気付けるように言葉掛けていく。
 - ・作品を見合い、工夫した所や良いところを言いあう機会を設け、友だちの表現に興味を持つとともに自分の表現（作品）に自信を持てるようにする。
 - ・自由画帳を活用し、自由に絵を描く経験を積む。
 - ・テーマを決めて描いたり、物語を聞いてイメージして描く活動も取り入れ、自分なりにイメージを膨らませ、思い思いに表現する力を育む。
 - ・用具を使いこなせるように、活動内容を工夫しながら指導していく。
 - ・同じ技法を繰り返し取り入れ経験することで身につけ、豊かな表現力を育む。その中で工夫しながらじっくり取り組んだり、丁寧に取り組み、細やかさが身につくように指導する。
 - ・様々な歌をうたう中で曲の強弱や速度、心情面や表現の仕方について知らせ豊かな表現ができるようにする。

【遊び・全身運動】 【造形・音楽リズム・自然】 chart略

年少学年・3歳児

【学年の目標】

基本的な生活習慣を身につけ、安定して園生活を過ごすとともに自分の思いを様々な方法で表現し、友だちと関わる楽しさを味わう。

【人間関係】

- 1期（4・5月）◎身近な人の存在に気付き、興味を持つ。
◎友だちや保育者に親しみをもち、安定して過ごす。
 - 2期（6～8月）◎好きな遊びを見つけて友だちと一緒に遊ぼうとする。
◎保育者に親しみをもち、触れ合ったり一緒に遊ぶことを楽しむ。
 - 3期（9～12月）◎色々な友だちに興味をもち、一緒に遊ぶことで活動を楽しむ。
◎遊びを楽しむ中で友だちとのかわり方を知る。
 - 4期（1～3月）◎気の合う友だちに自分の思いを伝える。
◎自分の思いを相手に言葉でつたえようとする。
◎友だちにも思いがあることを知り、受け入れようとする。
◎異年齢活動や横割り活動を通し、色々な友だちに親しみをもち、関わりを楽しむ。
- ・一人一人スキンシップを図り、気持ちを受け止めながら信頼関係を築く。
 - ・それぞれが好きな遊びを始められるようにコーナーを作る等、安心して過ごせる環境を整える。
 - ・友だちの遊びに気付けるよう言葉掛ける。
 - ・まねっこ遊びや追いかけっこ等、簡単な遊びを通して保育者の動きや言葉に関心が持てるようにする。
 - ・自分で伝えることが出来たことをしっかり認め、自信につなげる。
 - ・保育者が率先して遊びに誘いかけ、多くの子ども達と関われるようにする。
 - ・集団遊びを取り入れ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
 - ・異年齢児に親しみや憧れの気持ちを持てるよう関わる機会をつくる。
 - ・保育者が仲立ちとなり、言葉を代弁したり友だちの思いを知らせ、気付けるようにする。
 - ・横割り活動を取り入れ、色々な友だちや保育者に親しみ、関わりを深められるようにする。
 - ・友だちとの関わりの中で適度な距離感や接し方を気付けるようにする。

【健康・生活習慣】

- 1期（4・5月）◎生活に必要な場所を知り、仕方や約束ごとを知る。
◎園生活に慣れ、安定して過ごす。
◎排泄の仕方を覚え、自分でしようとする。
 - 2期（6～8月）◎自分の身の回りのことを進んで行おうとする。
◎危険な場所や遊び方、災害時等の行動の仕方を知り気をつけようとする。
◎食物に関心を持ち、食べることを楽しむ。
 - 3期（9～12月）◎生活習慣を見直し、意欲的に取り組む。
◎戸外で思いっきり身体を動かす心地良さを味わう。
 - 4期（1～3月）◎安定した気持ちで園生活を送り、自信を持って伸び伸びと行動する。
◎冬の生活の仕方を覚え、進んで行おうとする。
◎園生活に見通しを持ち、自分なりにけじめを持って行動しようとする。
- ・園生活の仕方や流れを一つひとつ丁寧に知らせ、慣れることで心の安定につなげる。
 - ・生活習慣や約束事（交通ルールや災害時の行動）についての視覚的教材を活用し、理解につなげる。
 - ・保育者間で子ども達の様子について定期的に話し合い、その時に必要な指導を行う。
 - ・日頃より食育を通して食物に興味を持てるよう伝えていく。
 - ・絵本等を活用し、興味・関心が持てるようにする。
 - ・出来るようになったことや、自分でしようとする気持ちを認めたり、保育者と思いきり遊び、楽しさを味わえるよう活動を工夫する。
 - ・保育者が見本となるよう率先して挨拶を行い、習慣づける。
 - ・出来るようになったことについては任せ、自主的に行えるようにする。確認は行なうようにする。
 - ・手洗い、うがい、消毒は丁寧にできるよう指導するとともに確認を行なう。うぐいは、2学期からコップを利用ししっかりと行えるよう習慣づけていく。
 - ・子どもたちの成長段階に合わせ、和式トイレの仕方や、制ズボンを下げずに排泄をする仕方を知らせていく。
 - ・子どもたちが落ち着いて行動できるような環境作り（室内の清掃、子どもの導線、保育者自身の言動など）を行なうとともに、自分で気づけるような言葉がけをしていく。
 - ・身だしなみを整えることや整理整頓を行い、習慣づけていく。
 - ・異年齢の友だちを手本としたり教えてもらいながら、園生活の約束事を守る意識を高める。

【環境・遊び】

- 1期（4・5月）◎自分の好きな遊びや場所を見つけて遊ぶ。
◎戸外の自然に触れ、感じたり発見して楽しむ。
- 2期（6～8月）◎水、砂、泥などの感触を楽しみ伸び伸びと遊ぶ。
◎植物の生長に興味を持ち、喜んで世話をする。

3期（9～12月）◎秋の自然に親しみ、自然物をつかった遊びを取り入れたり収穫の喜びを味わう。

◎身近な物に愛着を持ち、大切にしようとする。

4期（1～3月）◎冬の自然にの不思議さやおもしろさに気付く。

◎友だちと一緒に遊び中で共感し合う喜びを味わう。

- ・ 固定遊具や玩具の使い方や約束事を知らせ、安全に楽しく遊べるようにする。
- ・ 園内を巡ったり、遊んだりして色々な場所や自然に興味をもてるようにする。
- ・ 保育者や友だちの遊んでいる様子を見せ、遊びに関心を持つよう誘いかける。
- ・ 植物の生長過程に気付けるよう話をし、収穫に期待が持てるようにする。
- ・ 自然物を遊びや活動に取り入れることで季節の移り変わりを感じられるようにする。
- ・ 季節の移り変わりや、自然現象に気付けるよう言葉がける。
- ・ そのものの必要性や、そのものがあることによって遊びが楽しくなることを伝え、愛着をもてるようにする。
- ・ 遊びや活動の中で子どもが驚いたり、感動したりする気持ちに共感し、より興味関心が持てるようにする。
- ・ 子ども達の話丁寧聞き、自分の言葉で思いや感じたことを丁寧に伝えられるようにしていく。

【言葉】

1期（4・5月）◎生活の中で大切な挨拶や、返事の仕方を知り元気よく行なう。

◎自分の思いを保育者に伝えようとする。

2期（6～8月）◎遊びや生活の中で必要な言葉を知り、つかう。

◎自分の経験や思いを友だちや保育者に伝える楽しさを味わう。

3期（9～12月）◎人の話をよく聞き、自分なりに理解しようとする。

◎遊びの中で友だちと言葉のやりとりを楽しむ。

4期（1～3月）◎自分が経験したことや想像したことを伝え合う喜びを味わう。

◎絵本や物語に親しみ、興味をもって聞き、イメージを膨らませる。

- ・ 絵本の素話を聞かせ、人の話に耳を傾けたり興味を持てるようにする。
- ・ 保育者が見本となるよう率先して挨拶を行う。
- ・ 状況に合わせて具体的な言葉をその都度知らせ、その場に見合った言葉や必要な言葉を使えるようにする。
- ・ 子どもの言葉を保育者が受け止め聞いてもらう喜びを味わえるようにする。
- ・ 必要に応じ保育者が言葉がけることで自分の思いを言葉にできるよう援助する。
- ・ 子ども達が興味をもって聞けるよう話し方や話す内容を工夫する。
- ・ 色々なごっこ遊びを提案し、友だちや保育者と言葉のやりとりを楽しみながら遊べるようにする。
- ・ 自分の感じたことや経験したことを発表したり伝え合う機会を持ち、友だちの話に関心を持てるようにする。
- ・ 子ども達の話丁寧聞き、自分の言葉で思いや感じたことを丁寧に伝えられるようにしていく。
- ・ 口調や言葉づかいに気付き、気を付けられるよう、その都度知らせていく。

【表現】

1期（4・5月）◎描画活動や製作活動に興味を持つ。

◎手遊びや歌に親しみ、興味を持つ。

◎保育者や友だちと一緒にリズムに合わせて身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。

2期（6～8月）◎色々な材料や用具で描いたり作ったりすることを楽しむ。

◎色々な楽器に興味・関心を持ち、音をならすことを楽しむ。

3期（9～12月）◎自分なりにイメージしたものを伸び伸びと描いたり作ったりして楽しむ。

◎友だちと一緒に歌をうたったり、合奏する楽しさを味わう。

4期（1～3月）◎物語に親しみ、自分なりに伸び伸びと表現することを楽しむ。

◎用具の使い方を身につけ、イメージしたものを自分なりに表現しようとする。

- ・ 子どもの歌いやすい歌や興味をもっている歌、手遊びを取り入れる。
- ・ リトミックを取り入れ音楽に合わせて身体を動かす楽しさを味わうようにする。
- ・ 用具、楽器の使い方を知らせ、正しく扱えるようにする。
- ・ 子どもの興味や成長段階に合わせて、色々な経験ができるよう、活動を考慮する。
- ・ 子どもの表現したいことを認め、自信につなげ伸び伸びと表現できるようにする。
- ・ 友だちの意見に関心を持ち、取り入れられるよう言葉をひろったり、呼びかけをする。
- ・ 色々な楽器の音の違いに気付くよう言葉掛ける。
- ・ 保育者も歌をうたったりピアノ伴奏をし、楽しい雰囲気作りをする。
- ・ 日頃より、絵本や素話を取り入れ、物語に親しみが持てるようにする。
- ・ 子どものイメージを汲み取りながら手順や方法を一緒に考えたり、手掛かりになるよう援助する。
- ・ できた喜びや、表現する楽しさを共感し、満足感や自信につなげる。
- ・ 製作・描画では、子供が自分なりにイメージし、表現できるよう、導入方法や取り組み方を考慮する。
- ・ 様々な素材や廃材・自然物等に触れ、製作活動が楽しめるようにする。

【表現（造形・音楽リズム）】 【遊び・全身運動】 chart略

幼稚園全体・全学年

〔目 標〕 異年齢による教育活動を通して以下の教育目標を設定。

1. 異年齢の友達に親しみをもち関わりを深め、友だちとの生活の中で自分らしさを発揮する。
2. いろいろなクラス、学年の友達や保育者との関わりを楽しむ。
3. すずんで関わりをもち、思いやりの気持ちを育む。

〔2015年度 異年齢児による教育活動の取り組み〕

◎ 入園・進級当初〔4月・5月〕

- | | |
|------|----------------------------------|
| 保育目標 | ① 異年齢の存在を知らせ親しむ。 ② まわりの人へ親しみをもち。 |
| | ③ 自分の知っていること、できることを喜んで知らせようとする。 |
| | ④ 自分たちができることを考え行おうとする。 |
| 教育活動 | ① 園内めぐり→全学年 ② 給食準備手伝い→全学年 |
| | ③ 食育指導→全学年・市民の森散策→年中・年長 |

◎ 異年齢の友達に親しむ〔6月・7月・8月〕

- | | |
|------|---|
| 保育目標 | ① 異年齢の友達に興味をもち一緒に遊ぼうとする。 |
| | ② 異年齢の友達に手伝ってもらいながら自分のことをしようとする。 |
| | ③ 異年齢の友達にどのように伝えるか考え、接する。 |
| | ④ 異年齢の友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 |
| 教育活動 | ① 歯磨き指導 ② ダンスを踊る ③ 笹飾り→全学年 ④ 異年齢チームでの活動→年中・年長 |
| | ⑤ 市民の森散策→年中・年長 ⑥ ディサービスセンター訪問→年長 |
| | ⑦ 夏期保育 ・夏期預かり保育 |

◎ 異年齢の友達との関わりが深まる〔9月・10月・11月・12月〕

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 保育目標 | ① 異年齢の友達との関わり方を知る。 |
| | ② 自分の思いを友達に伝え友達の思いにも気づき受け入れたり応えたりする。 |
| | ③ 異年齢の関わりの中でリーダー的存在となり遊びをすすめる。 |
| 教育活動 | ① 運動会(異年齢リズム)→全学年 |
| | ② 10月異年齢活動(市民の森散策、構成遊び)→全学年 |
| | ③ いもほり(年中・年長) ④ 交通安全指導→全学年 ⑤ 七五三参拝 |
| | ⑥ ディサービスセンター訪問→年長 ⑦ 11月異年齢活動 |
| | ⑧ 市民の森散策→全学年 ⑨ 紙芝居読み聞かせ→全学年 |

◎ 異年齢の友達との活動に安心感をもつ〔1月・2月・3月〕

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 保育目標 | ① 異年齢の友達に積極的に関わり、友達の思いに気づき行動する。 |
| | ② 今までの経験や関わりに自信をもち、色々な人と関わる力へとつなげる。 |
| 教育活動 | ① 朝の集いゲーム ② お正月遊び ③ 一日入園 ④ 昼食会 |
| | ⑤ 誕生会司会進行・誕生会音楽隊の伝授 ⑥ お別れの集い→全学年 |
| | ⑦ 異年齢保育→年長 ⑧ 年長児へのプレゼントづくり→年少・年中 |
| | ⑨ 卒園製作→年長 ⑩ 歩こう会 |

年間を通し、「異年齢活動」がきっかけとなり、日常のあそびや登・降園での子ども達同士の関わり、預かり保育の活動時における子ども達同士の関わりが、さりげなく自然になるよう教育目標として設定した。異年齢児の交流は決して一方通行ではなく「やってあげるだけ」「やってもらうだけ」では成り立たず、「やってもらったことへの感謝の気持ち」「やってあげたことが、伝わった喜び」等、お互いが感じあうことが重要であると確信して重点目標とした。この取り組み、教育活動により本園の「建学の精神」がより太いものとなり、園児に意義ある教育活動並びに幼児の発達への援助が成されるものと認識している。

各学級 学級経営案

年度初に各担任教諭が設定した「学級経営案」を公開

年 み れ	◎基本的な生活習慣を身に付け、挨拶や返事を進んで行なえるクラス ・一人ひとりに生活の仕方を丁寧に知らせ、個々の成長段階に見合った言葉掛け・援助を行い身につくようにしていく。 ・身だしなみを整えることや整理整頓することへの意識を高め、心地良さを感じられるよう言葉掛け、習慣づけていく。 ・挨拶することの大切さに気付けるよう保育者が手本となり率先して行っていく。 ・人の話を聞くこと、けじめを持つことや態度についても知らせ、習慣づけていく。 ・出来るようになったことを認め、継続して行えるよう見直す機会をつくっていく。 ◎友達を思いやる気持ちが持てるクラス ・友だちと関わる中で、自分の思いを言葉で伝えられるよう様々な表現の仕方を知らせていく。相手の気持ちに気付いたり、受け入れようとしたりできるよう仲立ちしていく。 ・保育者が一人ひとりへ思いやる言葉掛けをし、良いところを認め、子ども達も友だちの良さに気付いたり関心が持てるようにする。 ・友だちに思いやりの気持ちを持つことについて、クラスで考える時間を作り、みんなで気づけるようにする。 ◎様々な活動に興味や関心を持ち、意欲的に取り組むクラス ・活動について興味を持てるよう、話の仕方を工夫したりわかりやすい言葉を使って伝える。 ・一つひとつの活動で子ども達が感じたことを受け止め、友だちや保育者と楽しさや面白さを共有できるよう働きかけていく。 ・活動後の振り返りの話を大切にし、感じたことや印象づいたことを言葉にして話したり聞いたりすることで、その後も経験したことを様々な事に繋げていけるようにする。 ◎歌やリズム遊び、造形遊びに親しみ、感じたことを伸び伸びと表現できるクラス ・季節の歌や行事の歌、子ども達が興味を持っている歌等を多く取り入れ、みんなで歌うことや覚えて歌うこと、歌詞の意味についても知らせ、楽しみながら取り組めるようにする。 ・リズム遊びやリトミックを通し、全身を使って伸び伸びと表現することの楽しさが味わえるようにする。 ・一人ひとりが感じたことや表現を認め、自分なりに表現の自信を持ってできるようにしていく。
少 た ん ば ば	◎基本的な生活習慣を身に付け、進んで行えるクラス ・丁寧に仕方を知らせ、理解に繋げる。 ・子ども一人ひとりの様子を把握し、子どもにあった援助をする。 ・自分自身で出来たことの喜びを感じ、意欲を持って出来るよう言葉掛をする。 ◎友だちや保育者に親しみをもち、思いやりができるクラス ・子ども一人ひとりと信頼関係が持てるよう関わる。 ・子どもの思いを代弁したり、子どもの話をじっくり聞き、自分の思いを言葉として伝えられるようにする。 ・友だちにも思いがあることを気付けるように話をする。 ◎様々なことに興味を持って意欲的に行い、楽しみながら取り組めるクラス ・興味を持って行えるような内容を考える。 ・落ち着いた環境作りをし、集中して行えるようにする。 ・活動を通じて保育者や友だちとの関わりが楽しいと感じられるようにする。 ◎リズム遊びや歌に興味を持ち、感じたことを伸び伸びと表現できるクラス ・子どもが興味を持って歌える歌や手遊びをして、音楽を楽しんで行えるようにする。 ・子どもの表現したことを認め、自信が持てるよう言葉掛けをする。 ・保育者が手本となり、子ども達が興味を持てるようにする。



各学級 学級経営案

年	ば	◎基本的な生活習慣を身に付け、進んで行えるクラス - 一人ひとりに生活の仕方や流れを丁寧に知らせ、個々に合った言葉掛け・援助を行い、身につくようにする。 - 挨拶、返事の大切さに気付けるよう、保育者が見本となってい、生活の中で必要な言葉を進んで言えるようにする。 - 頑張っている事、出来た事を認めて自信に繋げるとともに、継続して行えるようにしていく。 ◎友だちを思いやる気持ちを持つクラス - 友だちとの関わり方を知らせ、一緒に過ごすことの楽しさを味わい、親しみを持てるようにしていく。 - 保育者が一人ひとりの良いところを見つけ、認めたり思いやる言葉掛けを行うことで、友だちに関心が持てるようにする。 - 友だちとの関わりの中で、自分の思いを伝えたり友だちの思いに気付いていけるよう、代弁したり仲立ちを行っていく。 ◎話をしっかり聞き、様々な事に興味を持ち意欲的に取り組むクラス - 話し方や内容をよく考え、興味を持ち聞けるようにする。 - 落ち着いた環境作りや姿勢を整えてから話す習慣をつける。 - 頑張りや出来た事を認め、自信や意欲を持ち取り組めるようにする。 ◎リズム遊びや造形遊びに親しみ、感じたことを伸び伸びと表現できるクラス - 歌や手遊び等を通し、リズムに合わせ表現する楽しさや友だちと合わせる面白さを感じられるようにする。 - リトミックを取り入れ、全身を使い伸び伸びと表現する楽しさを味わえるようにする。 - 一人ひとりの表現や感じた事を認め、自信を持ち、自分なりの表現が出来るようにする。
	も	◎様々なことに興味を持って意欲的に取り組み、自分なりの力を発揮できるクラス - 一つひとつの活動に興味を持ち、楽しんで取り組めるように導入の工夫や言葉掛け、声のトーンを考える。 - わかりやすい言葉で伝えると共に必要に応じ個別に伝え、一人ひとりが理解し自分なりの力を発揮できるようにする。 - 子ども達の興味・関心をもとに活動やあそびに取り組んだり、継続して取り組み広げていけるような環境作りを心掛ける。 ◎基本的な生活習慣や挨拶・返事を身に付け、自発的に行えるクラス - 生活発表会について一つひとつ丁寧に知らせ、身につくように繰り返し子ども達と確認しながら行っていく。 - 保育者が見本となり元気よく挨拶や返事をし、その心地良さや大切さを伝えていく。 - 出来るようになったことを認め、自信へと繋げる。 ◎人を思いやる気持ちを大切に、思った事や感じた事を素直に表現し、伝え合ったり共感し合えるクラス - 自分の思いを言葉で伝えられるよう思いを受け止めながら伝え方を知らせていく。 - 必要に応じ保育者が仲立ちとなり、思いを聞きだしたり代弁しながら、相手にも色々な思いがあることに気付けるようにしていく。 - 保育者が一人ひとりを思いやる声掛けや良いところを認める声掛けをし、友だちの良いところに気付けるようにする。 - トラブルの際はクラス全体で考えたり話す機会を設け、友だちとの関わり方を考え、意識できるようにする。 ◎リズム遊びや造形活動に親しみ、伸び伸びと表現できるクラス - 日頃から手遊びやリズム遊び・歌を取り入れ、興味を持ち、楽しんで取り組めるようにする。 - 表現あそびやリトミックを通し、全身を使って表現する面白さや楽しさを感じられるようにする。 - 個々の表現を十分に認め、自信を持って自分なりの表現ができるようにする。また、友だちの表現や様々な表現の仕方に気付く、表現を高められるように働きかける。 - 様々な素材や技法に触れたり、色合いや形も工夫できるよう環境を整え、取り組んでいく。
少	う	◎友だちに思いやりの気持ちを持って関わる事ができるクラス - 自主活動や集団遊びを通し、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わい、関わりを深められるようにする。 - 一人ひとりの思いを大切にしながら、ともだちとのぶつかり合いの中で自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付く関わるよう援助していく。 - 友だちの良いところや頑張っているところを認め合えるよう働きかける。 ◎様々な活動に意欲的に取り組み、最後までやり遂げることができるクラス - 活動の導入の仕方や進め方を工夫し、興味・関心を持ち楽しんで活動に取り組めるようにする。 - 継続して取り組むことの大切さを伝え、自主性を育むとともに、出来るようになる達成感を味わえるようにする。 - 活動や遊びを継続して行い、友だちと協力しながら取り組める環境をつくる。 - 一人ひとりの出来るようになったことを認め、自信に繋げていく。 ◎話を最後まで聞き、けじめを持って取り組むクラス - 年少時に身についた生活習慣を丁寧に行えるよう継続して確認・指導を行っていく。 - 話を聞く姿勢や態度について日頃から子ども達と確認し、意識を高められるようにする。 - 子ども達が話に興味を持てるよう内容や話し方を工夫する。また、子どもの意見を取り入れながら話を行い、集中力を育むとともに考える力をつけられるようにする。
	め	

各学級 学級経営案

年 め	う	◎自分の気持ちや思った事を伝え合い、受け止めたり共感することができるクラス ・保育者が率先して挨拶を行い、日々の生活の中で友だちと言葉を交わし聞かれるようにする。 ・グループやクラスで話し合う機会を設け、自分の考えや思いを伝えたり相手の思いに気付き、共有できるよう援助していく。 ・気持ちを伝えることができたときは十分に認め、大切に気付けるようにする。難しい時は保育者が仲立ちとなり必要な言葉を知らせていくようにする。 ・自分の素直な気持ちを表現する楽しさや心地良さを味わえるよう働きかけていく。 ◎歌やリズム表現、造形活動を通し、感じたことを伸び伸び表現できるクラス ・日頃からリズム表現やダンスを取り入れ親しみ、楽しんで行えるようにする。 ・個々の表現を認め合いながら、友だちの表現や色々な表現の仕方があることに気付き、伸び伸びと表現することが出来るようにする。 ・様々な技法・素材を取り入れ製作活動に取り組むようにする。 ・楽器の音色に興味を持ったり、友だちとリズムに合わせて演奏することを楽しめるよう環境を整えたり、機会を設けていく。
	き く	◎思いやりの気持ちを持ち、友だち大切に出来るクラス ・集団遊びを多く取り入れ、友だちとの関わりを持つ機会をつくっていく。 ・自分の思いだけでなく友だちの思いにも気づけるように働きかけ、考えていく。 ・友だちの表情を見ることを伝え、気持ちを考えて行動できるようにする。 ・友だちの良いところに気付いたり、友だちの存在を認められるように働きかけ、集団生活を送れる喜びを味わう。 ◎進んで何事にも取り組み、けじめのあるクラス ・年少時に身に付けた生活習慣を定着させ、丁寧に出来るよう確認・指導を行っていく。 ・話しの聞き方の約束事を確認し、姿勢・態度に気をつけられるようにする。 ・活動に十分に興味・関心を持って取り組めるように、保育者の話し方や話す内容を工夫して保育を進める。 ・子どもの関心のあるものは何か、様子を見て感じ取り取り入れることで意欲を持って参加できるようにする。 ◎リズム表現や造形活動を伸び伸びと表現し合えるクラス ・日頃からリトミックや歌に親しめるよう、リズム遊びの楽しさを味わえる環境をつくる。 ・子どもの成長や興味・関心に合わせた題材設定を行い、導入の仕方・取り組み方を工夫する。 ・色々な技法を知らせ、素材を用いて行うことで楽しみながら行えるようにする。 ・身体を動かして表現する楽しさを味わえるように振り付けを工夫する。 ◎挨拶や返事、自分の思いを伝える大切さを知り、進んで行えるクラス ・グループ活動を通して自分の思いを伝える機会を多く設ける。 ・保育者が代弁するのではなく、子どもが自分の気持ちを自分の言葉で表現するように子どもと関わる。 ・保育者が挨拶や返事の手本となるように行う。 ・話しの仕方や言葉の使い方を知らせ、自分の思いをしっかりと表現できるようにしていく。
中 さ く ら	さ	◎話を最後まで聞き、様々なことに積極的に取り組むクラス ・話を聞く姿勢を継続して伝えていき、自分で気づけるよう習慣づける。 ・話の途中で子どもの集中が切れないよう、話の内容を簡潔にまとめ、大切なことが伝わるように黒板等にも書きながら話す。 ・保育者だけが話すことのないよう、子どもの意見を取り入れる。 ・聞く時話すときのメリハリをつけられるよう、発言するときは手を挙げ保育者に当てられてから話し始める約束を作り実行する。 ◎遊びに積極的に参加し、遊びを楽しめるクラス ・身体を動かす楽しさを味わい、様々な遊び（鉄棒、縄跳び等）に興味を持ち積極的に遊べるよう保育者も子どもも一緒に思いきり遊ぶ。 ・クラス全体で遊べる遊びを子どもと一緒に考え遊ぶことにより、クラス全体のコミュニケーションを図る。 ・遊びを振り返り改善点をみつけ、より一層楽しく遊べるよう工夫する。 ◎自分の気持ちを相手に伝え、共感し合えるクラス ・友だちに何か伝えようとしても伝えられずにいる子どもに仲立ちして援助する。 ・自分の気持ちを上手く伝えられずに感情のままに手が出たり、泣いてしまう子どもに対し言葉掛けをし、思っていることを伝えられるよう励まし、伝えることの大切さを知れるよう援助する。
	く ら	

各学級 学級経営案

年	さ く ら ◎リズム遊びや歌・製作を通し、感じたことを伸び伸びと表現できるクラス ・季節の歌や昔の歌等を知らせ、興味を持ち歌えるようにする。 ・保育前の導入等で簡単に楽しくできるリズム遊びをする。 ・様々な製作をするうちにハサミの使い方を知り、作品が完成する楽しさを味わい、意欲的に取り組めるようにする。 ◎挨拶や返事を元気に言い、身の回りのことを進んで行うことができるクラス ・登降園の際、子どもの見本となるよう保育者が元気に挨拶を行い、子どもに挨拶の仕方を意識付けする。 ・名前を呼ばれた時に相手に伝わるよう大きな声で正しく返事をするよう伝え、朝の活動や点呼の際に一人ひとり丁寧に聞き、返事を習慣づける。 ・個々の身辺整理の様子、速さを把握し必要に応じて援助するが、年長にむけ全てのことを一人で出来るよう言葉掛けを中心に言い見守る。 ・今何をしなければならないのか、認識して次の行動に見通しを持って行動できるよう、子ども全体にしっかり伝える。 ◎友だちに思いやりの気持ちを持ち、相手の気持ちを考えて行動できるクラス ・子ども同士トラブルが起きたら当事者が納得するまで話し合える環境を作り、解決まで導いてあげられるよう、様子を見て関わる。 ・個々の性格をよく把握し友だち或いは保育者に対して危険な行動をとりそうになった場合、もしくは危険な行動をとってしまった場合相手の立場に立って自分がされて嫌な事は絶対にしてはならないことを子どもが納得するまで話す。 ・クラス全体で友だちと助け合い、輪を大切にできるよう友だちのことを知る機会を増やしていき、一人ひとり関心を持てるようにする。 ・異年齢の友だちにも関心をもてるよう、普段の戸外遊びから積極的に関わり、親しみを持てるように異年齢で遊べる遊びをクラス全体で考える。
中	あ や め ◎園生活に見通しを持ち、安定し伸び伸びと元気の良いクラス ・新しい環境への不安な気持ちを受け止め、スキンシップを図るなどし安心できるようにする。 ・遊びの時間を十分に確保し、伸び伸びと過ごせるようにする。 ・挨拶や返事の大切さを伝え、元氣よく行えるようにする。 ・個々の頑張りや出来ていることを認め、自信と意欲を持ち伸び伸びと過ごせるようにする。 ◎生活習慣を身に付け、進んで丁寧に行動することの出来るクラス ・進級時は一つひとつの生活習慣、約束事を再確認し統一し身に付けられるようにする。 ・子ども達に任せる部分を増やし、自主性を持たせる。 ・出来る事の言動や環境作り、時間の確保等に留意し子ども達が落ちついた状態で一つひとつのことに集中して行えるようにする。 ・当番活動にしたり、子ども達同士で教え合いが出来るようにしていく。 ◎色々な友だちに思いやりの気持ちを持ち、積極的に関わろうとするとともに、相手の思いに気付こうとしたり、自分の思いを言葉にして伝えることの出来るクラス ・集団遊びを多く取り入れ、皆で遊ぶ楽しさを感じられるようにする。 ・自分の思いを伸び伸びと表現できる雰囲気作りに留意する。 ・友だちの表情をよく見たり、思いに気付けるよう言葉掛ける。 ・トラブルが起こった際は「やめて」「ごめん」「いいよ」等のみのやりとりではなく、何が嫌だったか、どうしたかったのかを具体的に言葉で伝えられるようにする。 ・トラブル等については全体で話をしたりすることで、友だちの思いや解決方法を考える機会を増やすようにする。 ◎様々なことに興味を持ち、何事にも意欲的・主体的に取り組めるクラス ・一つひとつの活動に興味を持てるよう、導入について十分考慮し、意欲に繋げる。 ・落ち着いた環境作りに留意するとともに、姿勢を整えてから話すことを習慣づけ、しっかりと話を聞けるようにする。 ・子どもが興味を持っていることや発言したことを見落とさず、寄り添い共感していく。 ・苦手意識のあることには気持ちを受け止め・安心できるようにするとともに、挑戦してみようという気持ちを育てていくようにする。 ・皆で取り組んでいる頑張ったこと等について話をし、クラス・学年意識を高める。また、友だちと力を合わせて取り組むことの大切さ楽しさに気付けるよう話をし、主体的に活動に参加できるようにする。 ◎リズム遊びや造形活動に親しみ、感じたことを伸び伸びと表現するとともに、自分なりに工夫し表現していく面白さを感じるクラス ・子どものイメージや表現を大切に出来るよう、導入や進め方を十分に考慮していく。 ・個々の表現を認め、自信を持ち、表現することの楽しさを感じられるようにする。 ・個々の能力をしっかりと把握し、必要な援助を行う。 ・友だちの様子にも気付けるよう話をし、刺激を受け合えるようにする。 ・静と動の切り替えに気をつけながら、保育を進めていくようにする。

各学級 学級経営案

年	ま つ ◎一つひとつの目標に向かって友だちと協力しながら取り組み、繰り返し挑戦するクラス ・友だちの様子に気付ける言葉掛けを行うことで、関心を持ち、励ましあいや協力を進んで行えるようにする。 ・日々の活動や行事の中で子ども達と目標を決め、その目標を達成できるような環境（頑張っていることを書いたり掲示するなど）作りをする。 ・活動に取り組む中で自分の考えや思いを話し合ったり、発表する場を設け、友だちと認め合ったり保育者が認めることで自信や意欲に繋げていく。 ◎年長児という自覚を持ち、異年齢の友だちに関わろうとするクラス ・今まで自分がしてもらったことを思い返し、今度は自分たちが優しくしていこうという気持ちを持てるように働きかける。 ・年下の友だちと関わる姿を認めるとともに、関わりを振り返ったり、気づいたこと感じたことを発表する機会をつくることで意欲がもてるようにする。 ・他学年の友だちにも関心がもてるよう様子や活動について知らせたり、自分たちが経験したことを伝えるなど、関わる機会を日頃から持てるようにする。 ・伝え方や関わり方など必要なことを知らせていき、子どもが困ったことがあればクラスで考え、一人ひとりの異年齢児への関心が高められるようにする。 ◎友だちの大切さを感じ、思いやりを持って関われるクラス ・保育者が個々の内面や気持ちを理解し、個性や良さを認め、子ども達に伝えるときにも、子ども同士でも良いところに気付き、伝え合うことが出来るよう働きかける。 ・トラブルが起こった時は子ども同士で解決できるよう見守ったり、相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを伝えたりする場を設け、お互いの気持ちを伝え合う経験を通し絆を深められるようにしていく。 ・色々な人に感謝の気持ちが持てるように様々な場面で人と関わり感じたことを伝え合ったり、自分自身がしてもらっていることなどに気付けるよう意識できるようにする。 ・友だち同士で認め合ったり、励まし合える雰囲気作りをすることで、苦手意識がある子どもも意欲的に取り組めるようにする。 ◎はじめを持って何事にも自発的に取り組めるクラス ・保育者が見本となり進んで挨拶を行い、元氣よく正しい挨拶をしったり必要な言葉を知らせていく。 ・話を聞く時の約束事を日頃より確認し、意識を高める。 ・身についたこと（返事、生活習慣、製作活動等）を丁寧に行えるように確認していき、個々に指導を行っていく。 ・室内の整理整頓や子どもの興味のある手遊びや歌を行うことで落ち着いて話を聞くことができるようにする。 ・子どもが理解しやすい内容で話し理解できているかを確認するとともに、出来ていることを十分に認め自信に繋げる。
長	た け ◎友だちや身近な人に思いやりや感謝の気持ちを持って関わるができるクラス ・遊びやグループ活動の時間を確保し、友だちとの絆を深め、友だちの大切さを感じ自然と行動に移せるようにする。 ・保育者が思いやりのある行動の見本となり、人との関わり方に気付いたり優しさを感じられるようにする。 ・生活や活動を通し、色々な人との関わり方を考えたり、関わった中で感じたことや気付いたこと出来たこと等を振り返る機会を設け、思いやりや感謝の気持ちを育んでいく。 ◎年長児としての自覚を持ち、自主的に考えたり行動できるクラス ・活動の内容や流れを伝えることで、見通しや意欲を持って行動できるようにする。 ・異年齢児の存在を意識できるよう言葉掛け、優しく関わったりけじめを持って行動し、見本となれるようにする。 ・生活や活動の中で子ども達の意見を取り入れるとともに、友だちと話し合ったりリーダーを決め子ども達が主体的に進める機会も多く設けていく。 ・生活習慣や生活態度について個々に振り返ったり、皆で話し合い、一人ひとりの意識を高めていく。 ◎何事にも意欲的に取り組むとともに、友だちと協力したり励まし合いながら、最後までやり遂げる達成感や感動を共有できるクラス ・保育者が見本となり、活動や遊びの楽しさを伝え、子ども達の興味や意欲を高める。 ・繰り返し取り組むことで上達することを知らせたり、頑張りを認めることで何度も挑戦する気持ちを持ち、継続して行い、出来た時の達成感を味わえるようにする。 ・友だち同士で認め合ったり、励まし合える雰囲気づくりをし、一人ひとりの意欲を高めたり、楽しさや喜びを共有できるようにする。 ・様々な活動を通し嬉しさや悔しさ等の気持ちを味わう中で、友だちと力を合わせることの大切さ面白さも感じられるよう働きかけていく。 ◎感じたことや想像したことを言葉や身体、音楽、造形活動等様々な方法で伸び伸び表現できるクラス ・様々な出来事を体験する中で子ども達が不思議に思ったり興味を持ったことに共感しながら豊かな感性を育んでいく。 ・自分のイメージしたことを話しあったり、発表することで刺激し合い、一人ひとりのイメージを豊かにしていく。 ・様々な素材や技法を取り入れ、興味を持ち自分なりに表現することを楽しめるようにする。 ・色々な歌や伝承遊び、演奏方法を知らせ、音楽に合わせ表現する楽しさを味わえるようにする。

各学級 学級経営案

年 長	ゆ り	◎友だちと一緒に園生活を十分に楽しみ、色々な活動に意欲的に取り組むクラス ・伸び伸びと安定した気持ちで取り組めるよう、ゆとりのある時間や環境を構成する。 ・一人ひとりの挑戦している内容を把握し、認め合ったり褒めたりしていくことで意欲を高め、成長を感じられるようにする。 ・友だち同士で教え合ったり、助け合ったりする姿を認め、苦手意識のある子どもも楽しみながら取り組むことのできる雰囲気作りをする。 ◎自分の思いを言葉にして伝えたり、友だちの考えを聞いたり受け入れ、思いやりを持って関わることのできるクラス ・相手の話を最後まで聞くことや自分の気持ちを相手にわかりやすい言葉で話すことを伝えていき、意識できるようにする。 ・自分の考えを発表する場を設け自信に繋げるとともに、友だちの考えにも気付けるようにし、関わり方にも繋げていけるようにする。 ・トラブルがあった場合は子ども同士で解決できるよう見守ったり、相手の気持ちを考えられるよう話し合う機会をつくり、色々なやりとりをしていくなかで、絆を深めていけるようにする。 ・グループでの活動を取り入れ、意見を聞くことで色々な考えがあることに気付き、互いの意見も尊重できるようにする。 ◎様々な活動を通し、伸び伸びと表現することの楽しさを味わうことのできるクラス ・素材や用具を目的に合わせて用意しておき、色々な技法を知らせていくことでイメージを膨らませ、表現していけるようにする。 ・楽器に触れる機会を設け、音色に興味を持ち、自分から挑戦しようとする環境作りを行う。 ・季節や行事の歌を多く取り入れ、一緒に歌う楽しさを感じられるようにする。 ◎園生活に親しみ、自発的に行動し考えることの出来るクラス ・予め、活動の内容を伝えておくことで見通しを持ち、自分で行動できるようにする。 ・自分からしようとする姿勢や継続して行うことの大切さについて話をし、繰り返し行うことで上達することに気付き、意欲に繋げていけるようにする。 ・友だちと話し合う場を多く設けることで互いに刺激し合い、意識を高めていけるようにする。 ・必要に応じて保育者がアイディアを提供することで活動をさらに広げ、子ども達が考えられる機会をつくるようにする。
--------	--------	--

教員自己評価 詳細

分 類	教 員 自己評価項目		園長・主任 自己評価項目	
	A	教育方針・指導計画	G	家庭連携
	B	健 康	H	安全管理
	C	人間関係	I	学級運営
	D	環 境	J	業務全般
	E	言 葉	K	研修研究
	F	表 現		
		※ 幼稚園運営の自己評価		
		3段階にて自己評価		
		A 十分、達成されている		
		B 達成されている		
		C 取り組んでいるが成果が十分でない		

A. 幼稚園教育の基本方針と指導計画・保育内容と記録、組織

NO 1 園の教育方針(教育目標)を理解しているか

内 容	教育理念・基本方針が明文化されているか（学校評価、HP他、一般公開）十分、理解・認識している。	A
	園の教育方針（教育目標）を保護者や第三者に説明することができる。	A
	教師が各自、幼稚園教育要領を手元に置き指導計画作成の際や機会あるごとに目を通して	B
	いる。	
	教員として、本園の（教育方針）自らの学年における目標を理解している。	A
	幼稚園教育要領のそれぞれの領域における考え方が、指導計画に反映されて実践している	A
参考物	本園の教育理念・教育目標・保護者への説明プリント・HPによる公開内容。学校評価。	

NO 2 指導計画は、子どもの発達の姿に配慮したものになっているか

内 容	幼児期の特徴を理解して、それぞれの時期における発達の流れを承知している。	A
	それぞれの子どもの興味・関心の赴くもの、また友だちとの関係について考慮している。	A
	担任だけでなく、それぞれの子どもを多面的にとらえる機会や話し合いの場が設けている	A
	一日の反省評価を記載し翌日に主任・園長の確認を受け自己反省として把握している	A
	個々の子どもの発達の様子、生活の様子について指導要録以外にも記録があり、また子どもの発達状況、生活状況について話し合う機会が定期的又は必要に応じ設けられている。	A

NO 3 指導案(週日案)を重要なものと位置付けているか

内 容	子どもの発達の姿にすべて配慮した指導計画・案となっている。	A
	指導計画、月案・週案などを確認し具体的なねらいを設定した日案を立てている。	A
	活動内容は発達の過程、子どもの興味・関心、生活の流れに応じているか確認している。	A
	計画は、ほかの教員にも知らせて、相互確認をしている。	A
	計画は、子どもの状況や天候などに配慮し、柔軟に実施されている。	A
	思い思いの活動と、クラスや全体での活動のバランスを考慮している。	A

NO 4 教職員間で子どもの共通理解・発達の確認がなされているか

内 容	教職員間で子どもの様子や変化についての情報交換を行い、情報の共有を行っている。	A
	特に配慮が必要な子どもについては、個別の話し合い（放課後ミーティング以外）が行われている。	A
	教職員間で連携をし、その子の発達援助を学年として、若しくは全員で行っている。	A
	特に配慮が必要な子どもについては、家庭での状況を把握すると共に、家庭に園での様子などを伝えている。	A
	教育課程にもとづいて、子どもの発達の状況を把握している。	A
参考物	子どもの育ちの記録	

NO 5 記録の点検・確認がなされているか

内 容	園日誌、幼児個人記録、行事の記録などの記入状況が点検されている。	A
	保育の記録や評価・反省は一定の様式・記入の仕方に従い、記載されている。	A
	記録は適切に保管・整理されている。	A
	保育の振り返りや、次回の計画の際に記録を活用している。	A
	記録・企画書・その他帳票類を上手に活用している。	A
参考物	園日誌、幼児個人記録、反省会議事録、企画書、行事の記録など	

NO 6 教職員間で諸会議が適切になされているか

内 容	連絡会議や職員会議などが、経常的に行われているが（放課後ミーティング）、確実性を以て意識している。	A
	直近の行事や予定など園の計画は、職員会議で周知徹底し、資料によって、わかるように整理している。	A
	会議録・記録簿等 自らが整理してファイリングしている。（個人）	B
	会議の際、意見が積極的に出している。	B
	子どもの発達に合わせた園環境の見直しについて、意識している。	A
参考物	会議録	

NO 7 子どもの様子を評価・反省し保育に生かしているか

内 容	その日の成長の様子や、変化が見られた子どもの様子を記録したり、他教員と話し合っている。	A
	その日のねらいが達成できたか評価・反省している。	A
	反省を生かし、教材研究を行っている。	B
	翌日や週の保育活動や環境構成に生かしている。	A
	反省、評価の方法が、どのように保育に生かされたか、確認している。	A



NO 8 日常の保育が適切に記録し活用されているか

内 容	指導案や幼児個人記録には、保育内容や出来事が記録されている。	A
	個人の記録は、決まった様式・観点で継続的に行っている。	B
	個人の記録は整理し、活用している。	A
	指導要録は進級、進級時に引き継ぎがなされている。	A
	個人の記録の取り扱い、および保管については十分に注意している。	A
参考物	幼児個人記録簿	

NO 9 組織的な仕事が行なわれているか

内 容	各教職員の役割の分掌と責任が明文化されていてしっかり意識している。	A
	職務の実施内容・検討事項などが記録・整理され、活用している。	A
	日ごろから、円滑に組織的な仕事が行われるよう改善に努めている。	B
	年齢・経験の隔たりなく話し合っている。	A
参考物	教職員・園務分掌表	

B. 健康

NO10 子どもがのびのびと行動し、充実感が味わえるよう工夫しているか

内 容	子どもが安定感を持って行動できるよう教師との信頼関係が築けている。	A
	戸外・室内において子どもが自分なりの遊びを見つけて楽しめる配慮や工夫がされている	B
	指導案に子どもが伸び伸びと遊びこめる時間が設けられている。	A

NO11 子どもが進んで戸外での活動を楽しむ配慮や工夫がされているか

内 容	子どもの目が自然と戸外に向くように自然物を豊かにしたり、固定遊具の配置に留意して室内から戸外への動線が連続するようにしている。	A
	教師がモデルとなって戸外で遊ぶ面白さを伝えるようにしている。	B
	子どもが戸外で遊ぶ時間を十分確保している。	A

NO12 子どもが運動的な活動に限らず、様々な遊びの中で十分体を動かす事ができるよう援助や働きかけを行っている

内 容	子どもが今、どんな遊びに興味・関心を持ち活動意欲が高まっているかを理解している	A
	子どもの興味・関心を喚起するような環境構成をつくっている。	A
	日々の保育がある特定の活動に偏る事の無いように計画している。	B

NO13 健康や安全な生活に対して必要な習慣や態度を身につけていけるよう工夫しているか

内 容	遊びや食事の時間等、子どもたちが園生活のリズムを身につけていける指導を行っている	A
	園における生活の仕方を知り、子どもたちが自分で生活や遊びの場を整えていける指導を行っている。	A
	危険な場所や遊びに対して配慮や指導を行っている。	A

C, 人間関係

N014 子どもが自分で行動することの充実感を味わえるような援助を行っているか

内 容	子どもが不安になった時に、いつでも応じられるように常に教師が身近にいる。	B
	集団の中でも個々の子どもの気持ちや意図を汲み取る配慮をしている。	A
	子どもたちが自分で考え、自分で行動する機会を積極的に設けたり、それに対する援助を行っている。	A

N015 自分の保育の上で相手の思いや気持ちに気づいていけるような援助や機会を設けているか

内 容	トラブルの場面では、危険のないよう配慮しながら子どもたち同士で解決できるように援助している。	A
	友達に自分の思いを伝えようとしている子どもに対して見守り必要な援助をしている。	A
	教師や友だち以外の色々な人を通して様々な事を知ったり考える機会を設けている。	A
	異年齢児との交流の機会が設けられるよう常時意識している。	A

D. 環境

N016 園生活における望ましい習慣や態度を身につけるための指導を行ったり機会を設けているか

内 容	子どもたちが社会的ルールや善悪の判断を身につけていくよう配慮している。	A
	当番活動を日常生活の中でしっかり行っている。	A
	異年齢児との交流を日頃より意識して行っている。	A
	友だちと協力したり、一緒に行う活動の機会を設けている。	A
	子どもが他者の気持ちに気づき、時には自分の要求を抑えるような援助や指導を行っている。	A

N017 年度教育指針「異年齢保育」について園児と十分にかかわり、ねらいの達成に努めたか

内 容	本園教育課程を理解、認識し学級の園児以外にも多く関わった。	A
	異年齢の存在を認識することから段階的に園児に助言、指導した。	A

N018 身近な環境に親しみ、様々な事象に興味や関心が持てるように工夫がされているか。

内 容	園内の自然環境を整備し、活用している。	B
	子どもが、（動）植物に接する機会をつくっている。	B
	季節感のある素材を保育に活用したり季節にあわせた室内環境を工夫している。	A
	子どもが光や風を感じられる工夫やそれらを保育に取り入れられている。	A

N019 幼稚園全体の環境構成に十分配慮しているか

内 容	自分の保育室のみならずトイレ、遊戯室など全体の環境構成に留意している。	A
	園門付近や廊下など安全管理を含め子どもの生活の場として意識している。	B
	掃除や整理整頓に心がけている。	B

NO20 子どもが自発的に活動したり遊べる環境が整備されているか

内 容	子どもの問いかけや話かけを後回しにせず、その場で対応している。	A
	自分を表現する力が十分でない子どもに対しては表情やスキンシップなどを通して心情を読み取っている。	A
	毎日または定期的に教師と子どもたちとの会話の時間を設けている。	B
	子どもにわかりやすい言葉でおだやかに話している。	A

NO21 子どもの遊びや活動が発展するヒントとなる工夫や配慮がされているか

内 容	子どもの遊びや活動の広がりや臨機応変に対処するよう心がけている。	A
	その日の子どもの活動の様子を振り返りながら翌日若しくは今後の環境を整えている。	A

NO22 保育室(クラス担任の保育室)の環境に常々、留意していたか。

内 容	活動の場としての保育室を常々「清潔」「整理整頓」「危険防止安全対策」に留意している。	A
-----	--	---

NO23 日常保育のための環境構成を適切に行っているか

内 容	前日までの子どもの様子に留意し、幼児の興味・関心やあそびの連続性に配慮した環境構成を行っている。	A
	週や一日を通し、バランスよく多様な活動ができるように、保育の構成を心がけている	A
	子どもが自発的にかかわれる環境の構成に努めている。	A
	異年齢の子どもが自然に交流できるような環境の構成をしている。	A
	職員全体で連携し、環境の構成を行っている。	B

E. 言葉

NO24 子どもが自分の気持ちを自分なりに表現したとき、それを受け止めているか

内 容	子どもの発達段階に即した玩具や遊具、教具を用意し、子ども達に活用を促している。	A
	玩具や遊具、教具が十分に事前に用意されている。	A
	子どもが素材や用具などを自由に自分で選んで遊べるように工夫している。	A
	子どもが、遊びこむ時間を確保している。	A

NO25 子ども達自身が友だち同士で話し合えるように工夫されているか

内 容	グループ活動や当番活動など子どもたちが自主的に進めていけるような機会を設けている	A
	戸外遊びや自由遊びなどの時間を十分に設けている。	A
	子どもたちで解決できそうな場合は、教師が答えを出してしまわないよう見守る姿勢を心がけている。	A

NO26 生活や遊びの中から出てきた言葉やアイデアが保育に生かされているか

内 容	子どもたちの話の中から出てきた疑問や発見を受けとめクラスで話し合ったり、実際に確かめたりしている。	A
	子どもたちの発想や思いをもとにして<例：描画・お話づくり・劇遊び・リズム表現等などの活動につなげている。	A

N027 子ども自身が挨拶の意味を知り、進んで行えているか

内 容	教師が率先して挨拶をし、親しい雰囲気をつくっている。	A
	挨拶の大切さ、意味を子どもたちに伝えている。	A

N028 絵本や紙芝居、素話などを時間や内容を考慮し、工夫して積極的に取り入れているか

内 容	子どもたちの興味のあるものに関連性がある絵本や紙芝居を用意している。	A
	行事や季節、またそれぞれの学年に応じたものを選んでいる。	A
	絵本や紙芝居は事前に内容を把握し、子どもに伝わるように読み聞かせている。	A
	落ちついた、ゆったりした時間の中で、1日に一度は（若しくは数日に一度）必ず絵本や紙芝居、素話をする機会を設けている。	B

F. 表現

N029 子どもの表現しようとする意欲を受け止め、また子どもが様々な表現を楽しむ事ができるように配慮しているか

内 容	子どもが生活の中で感じた美しいものや心を動かす出来事を教師が受け止め共感している。	A
	子どもが自分なりの思いで描いたり、イメージしたものをつくろうとしている気持ちを受け止め共感している。	A
	子どもたちの様々なイメージの表現に必要な素材や用具を工夫し、準備している。	A

N030 子どもが生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、楽しんだりできるように工夫されているか

内 容	子どもの興味や関心を引き出すような音楽や楽器を保育に取り入れている。	A
	保育室など子どもが見られる所に絵画等を展示している。	B
	子どもに刺激となるさまざまな素材や保育教材が準備されている。	B

N031 子どもが自由に音や動きで表現する機会が設けられているか

内 容	子どもが様々な楽器に触れ、楽しむ保育をしている。	A
	教師が先回りして指示したり、性急に技能的なことを求めたりせず、子どもに自由感を	A
	教師も子どもと一緒に表現する事が楽しいという姿勢が持てている。	A
	身体を使った様々な表現あそびが取り入れられている。	A
	子どもが日常的に歌をうたう機会が設けられている。	A

N032 子どもの作品が工夫して飾られる等、丁寧に扱われているか

内 容	一つ一つの作品について、教師がその面白さや大切さを理解するように努めている。	A
	子どもの作品に対する思いや、その作品に関する話を受け止め記録している。	B

G. 家庭連携

NO33 子どもの様子や育ち・保育内容等を保護者にわかりやすく伝えるよう工夫しているか

内 容	日常の様子などは、必要に応じて電話連絡している。	A
	けがや事故が起きた時は状況や原因などを細かく説明している。	A
	クラスや子どもの様子・成長などを「クラスだより」で確実に伝えている。	A
	保育参観や懇談会において保育内容をより理解してもらえるようようにしている。	A

NO34 保護者の質問や意見を聞くなど情報交換をすることによって、幼稚園と家庭が子どもの望ましい発達を促すための生活について考えていけるような連携がとれているか。

内 容	保護者の相談や質問には、丁寧に対応している。	A
	保護者と個別面談や電話連絡などを通じ定期的に子ども一人ひとりの共通理解に努めている。	A
	園の様子や子どもの発達理解のための情報提供に努めている。	A
	個別の課題や目標に応じ、保護者と連携して達成に努めている。	B
	子どもの成長や変化を保護者に伝え、喜びを共有するよう努めている。	A
	個人懇談で家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えるなど情報交換をしている。	A
	子どものことで「家庭（保護者）への連絡」を怠ったことはない。	B
	知り得た家庭事情や子どもに関する情報を他人に漏らさないようにしている。	A
	保護者の家庭状況や変化を把握している。	B
	特に配慮が必要な家庭には、状況に応じた対応がなされている。	A
	電話連絡などで、こまめな相互連絡を心がけている。	A
	保護者が理解しやすい、日ごろからの関係・環境を作っている。	A
	保護者理解と個別対応がなされている。	A
	教職員同士での保護者理解のための情報交換・共有をしている。	A

NO35 苦情解決のための取り組みを行っているか

内 容	苦情や質問の苦情解決のための仕組みを工夫している。	A
	教職員が聞いた保護者の苦情や質問などは、主任や園長に確実に伝えている。	A
	苦情の内容と、その解決方法はすべての保護者に情報として提供されている。	A
	苦情については、職員が保育を改善するための前向きな意見としてとらえている。	A

H. 安全管理

NO36 室内や園庭の安全に対して、定期的に点検・改善を行っているか。

内 容	遊具・設備備品・保育室内・園庭等戸外・建物共有空間などに関する安全点検チェックリストが作成されていて運用している。	A
	安全管理担当者（火元責任、倉庫点検など）を決めて職務を遂行している。	A
	事故や怪我の報告書などがあり、記載し、それをもとに再発防止に努めている。	A

NO37 緊急事態に対して敏速に対応できるようにしているか

内 容	緊急時行動に関するマニュアルを周知徹底、理解把握している。	A
	通報先（警察など外部）にすぐに連絡ができるようにしている。	A
	教師間への連絡連携が取れる体制になっている。	A
	防御スプレー、さすまた等、すぐに使えるようにしている。	A
	消火器の位置を把握し、使い方を理解している。	A

NO38 薬品の取り扱いに十分配慮しているか

内 容	薬を飲ませる場合は、保護者の依頼を受け確実に与薬している。	A
	救急医薬品の置き場所、並びにその内容は確実に把握している。	A
	清掃用などの薬品は、確実に保管するように配慮している。	A
	子どものアレルギー疾患などを把握していて、他の教師にも周知されている。	A

NO39 園庭は常に整備されていて、室内は清潔で整理整頓が行き届いているか

内 容	衛生管理について、しっかり意識して実行している。	A
	遊具や玩具が使いやすいように工夫している。	A
	常に園児の「安全」に気をくばっていたか。通園バスの進入の際や遊具の活用の際等。	A

NO40 安全・衛生点検に心がけているか

内 容	日ごろから安全・衛生意識の確認を行っている。	A
	定期的に、安全・衛生点検を実施している。	A
	点検リストが準備されていて確実に対処している。	A
	環境構成の際に、安全・衛生点検の視点を組み込んでいる。	A
	行政などからの情報を把握し（光化学スモック情報、PM2.5情報等）、教職員で情報を共有し、安全・衛生点検に役立てている。	A

NO41 園児の受け取り、引き渡しに関する安全の確認がなされているか

内 容	園児の受け取り、引き渡しの手順が定められている通り対応している。	B
	教職員間で手順や方法について、定期的に確認し、保護者にも周知している。	A
	父母でない者への引き渡しのルールがあり、周知されている。	A
	子どものその日の健康状況などを見て、確認している。	A
	子どもの受け取り、引き渡し場所（バス通園・直接園）の安全を確実に確認している	B

NO42 施設・設備、遊具に対する安全対策ができているか

内 容	職員ひとりひとりに、危険・安全について意識を高めている。	A
	点検リスト、点検簿があり、定期的に記録している。	A
	複数の教員により点検を確実に実施している。	A
	不備が見つかった場合、緊急度を考慮して対応している。	A
参考物	点検記録簿・マニュアル	

NO43 不審者への対応がなされているか

内 容	日常から子どもへの、啓蒙活動をしている。	A
	子ども・職員に、防犯教育を行っている。	A
参考物	不審者対応マニュアル 監視カメラ 不審者対応のための防具類 緊急連絡の設備方法	A

NO44 事故予防および事故発生時の対応手段が整っているか

内 容	事故の危険がある場所をチェックし、改善に努めている。	A
	事故発生時の対応マニュアルが作成されていて、保護者に周知されている。	A
	教職員間で事故発生時の対応の仕方や分担の話し合いがなされ、連携のとれる体制が	A
	保護者へ、事故の経緯・対応や改善策が説明されている。	A
	事故対応後は、速やかに問題点を明らかにし、改善策を講じている。	A
参考物	事故記録簿・報告書	

NO45 弁当・給食における安全衛生対策がなされているか

内 容	弁当・給食の保管場所に留意し、適切に管理している。	A
	子どもの食事に注意を払い、喫食状況を把握している。	A
	保護者にバランスのとれたメニューや、食育についての情報提供を行っている。	A
	子どものアレルギー状況を把握し、適切に対応している。	A

I. 学級運営

NO46 保育室は整理・整頓が行き届き、安全にも配慮した環境にしているか

内 容	掃き掃除や拭き掃除が行き届いていて、いつも清潔な環境で子どもを迎えている。	A
	子どもの動線なども考え、安全に配慮した環境になっている。	A

NO47 個々の子どもの心身の状況を把握したり、配慮しながら保育をしているか

内 容	登園後や降園前に視診をして、子どもの心身の状況を把握している。	A
	子どもの内面を見ることを心がけながら、保育をしている。	A
	一人ひとりの子どもが、落ち着いて遊んだり生活できる場になるように工夫している	A

NO48 子どもとの信頼関係の確保に努めているか

内 容	クラスの子どものには、ひとりひとりに対して毎日言葉がけをしている。	A
	園全体の子どもの名前を覚えている。	A
	スキンシップやあそびを通して、子どもとの関係を深めている。	A
	子どもへの言葉遣いや対応が適切であるか、教職員間で確認している。	A
	子どもの自主性を尊重し、好ましい人間関係を作っている。	A

NO49 日常保育のための環境構成を適切に行っているか

内 容	前日までの子どもの様子に留意し、幼児の興味・関心やあそびの連続性に配慮した環境構成を行っている。	A
	週や一日を通し、バランスよく多様な活動ができるように、保育の構成を心がけている。	A
	子どもが自発的にかかわれる環境の構成に努めている。	A
	異年齢の子どもが自然に交流できるような環境の構成をしている。	A
	職員全体で連携し、環境の構成を行っている。	A

J. 業務全般

NO50 社会人としての最低限の職場のマナー、礼儀は自分でできていると思うか

内 容	挨拶、笑顔、電話対応、言葉づかい。態度、マナー、行儀。	B
	職員間での約束事、業務として教員会議で決定されたことを貴女は遵守しているか。	B
	期限や取り決めの時間を遵守しているか。	B
	報告の義務は怠ったことはないか。	B
	園務分掌・行事の担当者それぞれと十分に協議を行い「企画」したか。先輩職員の説明や同輩、後輩の職員の意見など活発な取り組みの姿勢があったか。	A
	会議での発言、発表、説明などは十分に行えたか。	B
	広い視野にたって「園児」「業務」を観ているか。	A

NO51 日常業務について

内 容	園からの配布物(手紙等)は、決められた期日に配布している。また、その内容を熟知し理解している。	A
	金品の徴収や納付金は、第一預かり者としての責任をもって対処している。	A
	経費節減のため、無駄な教材使用やコピー節減に意識して努めている。	A
	園務分掌、行事担当、その他の役割分担をしつかり意識し、消化し業務を遂行している。	A

K. 研修と研究

NO52 園内研修等で自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価をしあい、保育の質の向上に努めているか

内 容	主任他、他教員とコミュニケーションをよくとり、他の教師の助言や保育技術を参考にしている。	A
	研修で学んだことが教職員に報告され、保育に生かされている。	A
	保育について教職員間で話し合ったり、指導や協力体制が確立されている。	A
	自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価を行い、保育の質の向上に努めている。	A

NO53 専門書や雑誌を読む等、保育技術を高めるための努力をし、習得した事を実際の保育に生かしているか

内 容	定期的に購読している教育書や保育雑誌がある。	A
	公開保育に積極的に参加したり他の教師の保育の様子を見学するよう努めている。	A
	夏期休暇等を利用して研修・教材研究を行っている。	B

N054 教材の研究、題材の研究をその活動ごとにまたは、定期的に行ったか。

内 容	定期的に「教材」または「活動のための題材や素材など」についてその活用内容について	A
	「教材研究」を日頃より留意し、保育に生かしている。	B

N055 食育について、どのように取り組んでいるか

内 容	園として食育に取り組み、教員して実践している。	A
	教員間で食育について話し合い、共通理解を図っている。	A
	折にふれ、保護者に食育の方針について説明をしている。	B

幼稚園運営の自己評価

幼稚園教育の基本方針と組織

1-1 園長・主任教諭は、リーダーとしての責任を果たしているか		
A	園長・主任は、園運営に関するビジョンの提示やさまざまな情報収集と提供を行っている。	
	園長・主任は、園運営の中心となり、教職員と協力して問題解決に努めている。	
	積極的に研修会に参加し、自己研鑽を図り、相談力・助言力・説明力・調整力・リーダーシップなどの向上に努めている。	
	折にふれ、園長の保育観や考え方を教職員や保護者に伝えている。	
	教職員と一緒に問題解決について、適切な判断が行われているか点検・評価を行っている。	
備考	園長のビジョンを明文化し伝える物	

1-2 地域交流と貢献を心がけているか		
B	教職員は地域交流や貢献の大切さを理解している。	
	園の行事などに積極的に地域の人の参加を呼びかけている。	
	日常において地域の人との信頼関係を積み重ねている。	
	積極的に地域の文化・自然を活用して保育を実践している。	

保育内容の確認 [幼稚園全体]

2-1 環境問題への配慮がなされているか		
A	節水、節電に努めている。	
	保育の中で環境教育を行っている。	
	自然体験を通して、環境の大切さを知らせたり、深める活動を取り入れている。	
	園での取り組みを保護者に知らせ、理解してもらっている。	
	地域との連携を意識して行っている。	

保育内容の確認 [教員]

2-2 行事の配置は適正か		
A	年間行事計画を作成している。	
	その年の子どもの実態に合わせ、行事を編成している。	
	個々の行事について教職員と十分に話し合い、必要に応じ見直しを行っている。	
	日本の文化や季節感のある行事を取り入れ、子どもに伝えている。	
	保護者や地域の人たちとの関係作りに配慮している。	
備考	年間行事計画	

研修と研究

3-1 人材の計画的な確保、育成をしているか	
内 容 B	保育に必要な教職員数を計画的に確保している。
	園外の研修の参加を促進し、また園内の研修の実施に努めている。
	社会人としての良識とマナーを含めた研修を実施している。
	研修担当をしっかりと決め、責任をもって新人の育成にあたっている。
	非常勤職員にも、園の方針について研修を行っている。

3-2 園外研修が適切に行われているか	
内 容 A	園外研修に出やすい雰囲気を作り、積極的な参加を促している。
	参加者は、目的意識をもって事前の準備をし、参加するようにしている。
	研修で学んだことが教職員に報告され、保育に生かされている。
	年間を通して、計画的に園外研修を行っている。
	一年間を反省し、次年度の計画を立てている。

3-3 特別支援に対応しているか	
内 容 A	支援を必要とする子どもの受け入れの必要性を共通理解している。
	教職員は、日ごろから支援を必要とする子どもに関する一般的理解を深めるよう研修会に参加している。
	個々の子どもの理解が進むよう、保護者、教職員間で必要な情報提供を行い、連携・協力を図っている。
	医療機関や関係機関と連携をとり、必要な情報を全教職員が共有している。
	支援が必要な子どもに沿った環境整備がなされている。

3-4 いじめ・差別・性差別などの対応が適切に行われているか	
内 容 A	いじめ・差別・性差別などについて教職員の共通理解、情報交換を行っている。
	いじめ・差別・性差別などの課題について、保育の中での取り扱いに留意している。
	子どもや保護者にもわかりやすい説明を行っている。
	研修会に参加し、専門的な知識を得るよう努力している。
	保育のなかでも、子どもたちにわかりやすく説明をして理解をしてもらっている。

3-5 幼小連携に努めているか	
内 容 A	幼小の連携の必要性を理解している。
	発達や学びの連続性を理解し、スムーズな接続に向けて教職員の研修を図っている。
	小学校との情報交換や連携に努めている。
	子どもたちに進学への期待や心構えなどを話す機会を設けている。
	保護者に対して、進学の心構えや、先輩の体験談などを伝える機会を設けている。

幼稚園機能の拡大

4-1 地域の子育て支援に対応しているか	
内 容 A	幼児期の地域の教育センターとしての役割や、子育て支援の意義を理解し実施している。
	子育て支援について、教職員の協力体制や情報交換を心がけている。
	子育て情報の発信や、地域の施設・機関と連携した子育て支援を心がけている。
	未就園児への対応や、園庭開放を行っている。
	安心して悩みを相談できる、子育て相談の場を提供している。
備考	告知情報媒体など

4-2 未就園児への対応を行っているか	
内 容 A	計画、案内が地域に知らされている。
	意義を理解し、実施している。
	目的や使命を教職員に伝えている。
	子どもの状況に応じた対応を心がけ、保護者ニーズを把握している。
	子ども同士に限らず、保護者同士の交流にも心がけている。
備考	告知情報媒体など

4-3 預かり保育を適正に実施しているか	
内 容 A	子どもの一日の生活を考慮し、施設や設備などの環境を整えている。
	子どもが長時間過ごすことができるよう、生活リズムに配慮し、保育内容や方法を工夫している。
	担当者ほかの教職員の協力体制や、情報交換を心がけている。
	預かり保育を利用する保護者との緊密な連携を心がけている。
	正規の教育時間内の活動に、支障のない範囲で行っている。
備考	預かり保育日誌 園案内

4-4 実習生の研修の場の提供を適切に行っているか	
内 容 A	実習生の受け入れ体制を整備している。
	実習生受け入れの意義を、教職員間で共通理解している。
	実習生には、事前研修、オリエンテーションなどを行っている。
	幼児教育の大切さや、園の方針・園児とのかかわり方の基本などを知らせている。
	養成校と連携し、情報交換を心がけている。
備考	研修リスト 実習生の保育日誌 実習生心得

4-5 情報公開を適正に行っているか	
内 容 A	私学法や設置基準で定められた園の情報を、わかりやすく情報公開するように努めている。
	ホームページなどの電子媒体や掲示板、手紙などを利用し、広く園の方針・活動を地域に知らせている。
	園便りや、クラス便りの定期的な発行など、保護者を対象として情報の提供を行っている。
	保護者や地域の人などに、園の活動や地域における幼児教育のセンターとしての活動についての情報公開をしている。
	自己点検・自己評価の結果についての情報公開を行っている。

諸法規の遵守

5-1 健康診断を実施しているか	
内 容 A	子どもの健康診断を定期的の実施している。
	子どもの健康診断の結果は、保護者に知らせている。
	診断の上、気になる子がいたら、園医・教職員・家庭と連携を図っている。
	健康診断を子どもの健康な発達のために生かしている。
	教職員の健康診断を毎年実施している。子どもの健康の記録・教職員の健康診断の記録

5-2 労働基準法に対応しているか	
内 容 A	法改正に応じて、就業規則および関連協定が整備され、遵守されている。
	新しい規則に対応した就業規則および関連協定の届出がなされている。
	労働協定・就業規則・給与規定、旅費規程、履歴書、雇用契約書、成績証明書、免許証の写しなどが整理保管されている。
	教職員が必要な書類を閲覧でき、また内容について周知する機会を設けている。
	常に職員の労働環境について配慮している。
備考	就業規則 諸規定 労働基準局への届出 教職員履歴書つづり 勤務時間管理

5-3 道路交通法に対応しているか	
内 容 A	園車両や教職員車両の任意保険加入状況および更新時の内容を確認している。
	定期的に安全教育や、話し合いを実施している。
	定期的に車両の整備状況を確認している。
	事故の際の対応手順は、定められたマニュアルがある。
	園周辺の交通安全には、特に配慮している。
備考	バス運行マニュアル・運行記録 地図 安全運行の保護者への周知 保険契約

5-4 虐待防止などの対策、対応がなされているか	
内 容 A	虐待の発見や防止のための研修や話し合いが行われ、教職員の共通理解がなされている。
	発見や疑念をもった場合の対応方法のマニュアルがある。
	関連施設との連携を図っている。
	保護者にも虐待防止についての説明がなされている。
	普段から子どもの様子や変化に注意を払っている。
備考	視診・対応マニュアル 虐待防止に関する話し合い記録

リスク対応

6-1 任意保険の確認を行っているか	
内 容 A	賠償、傷害、火災、自動車保険に加入している。
	更新時には、賠償内容の説明を受け、補償額の確認をしている。
	教職員、保護者に保険内容を周知している。
	園児ひとりひとりが傷害保険に加入している。
	常に園の抱えているリスクをイメージして、保険を考えている。

6-2 社会的事件からの学習、対応がなされているか	
内 容 A	子どもに関連する事件・事故の情報収集を全教職員が行っている。
	収集した情報にもとづき、教職員間で問題を把握、共有し、対応策を講じている。
	関連情報や対応策を保護者に説明している。
	地域や保護者との連携を図っている。
	子どもたちに安全教育を施している。

6-3 コンピューター・インターネットの安全管理がなされているか	
内 容 A	コンピューターの故障、ウィルス対応のためのバックアップ対策がしてある。
	コンピューターの盗難、廃棄の際の情報管理がなされている。
	ホームページの管理は定期的に決められた人がチェックしている。
	コンピューター本体、重要なデータなどは、厳重に管理している。
	個人情報ファイルには、必ずパスワードを設定している。
備考	バックアップ ウィルス対応ソフト 更新 情報流失

適正な事務処理

7-1 園の重要書類の管理がなされているか	
内 容 A	責任者を決め、重要書類の保管、管理が正しく行われている。
	災害などでの、緊急持ち出しが可能なように整理されている。
	書類は定期的に確認され、決められた手段で処分されている。
	重要書類は、施錠できる場所に保管されている。
	持ち出しが必要な場合、持ち出しのルールや手順が決められている。

7-2 必要な書類や、公文書などの処理が適正に行われているか	
内 容 A	公文書の受信・発信簿が整理されている。
	公文書受付時の処理担当者が決められている。
	必要な公文書は教職員に周知されている。
	必要な書類が整備され、正しく更新されている。
	諸規定・保育計画やマニュアルなどは定められた場所に保管されている。
備考	公文書 園則・寄付行為・就業規則・給与規定・旅費規程・経理規定・自衛消防計画・車両運行規定

7-3 園の情報公開が適正に行われているか	
内 容 A	保護者などから情報公開請求があった場合、法に定められた内容に従い公開している。
	保護者などから情報公開請求があった場合の、手続きや対応が決められている。
	公開された情報が、わかりやすい情報がどうか保護者に確認している。
	情報公開すべき書類などについては、常に整理されている。
	責任者を決め、保管、管理が正しく行われている。
備考	情報公開のルール、財産目録、貸借対照表、収支計算書および事業報告書など (私学法)

研修内容詳細目 関連項目／K. 研修と研究 315

下記の 園内研修を実施。また園外研修に参加

(1) 園内研修・研究保育

	研 修 日 時	研 修 内 容	研 修 者
1	2015年 5月13日	製作活動 年中・さくら組	香西 教諭
2	2015年 5月19日	製作活動 年少・たんぽぽ組	石元 教諭
3	2015年 5月19日	音楽活動 年長・ゆり組	村瀬 教諭
4	2015年 5月26日	製作活動 年中・きく組	西 教諭
それぞれの研究保育の後、評価・反省会議を実施			

(2) 園外研修・研究保育

記載以外に園長 山口尚志は、枚方市園長会研修に参加、出席

	研 修 日 時	研 修 内 容	研 修 者
1	2015年 4月14日	大阪府私立幼稚園連盟青年振興部 総会・研修会	教諭 山口哲也
2	2015年 4月24日	認定こども園公定価格ソフト説明研修会	教諭 山口哲也
3	2015年 5月28日	大阪府私立幼稚園連盟青年振興部研修会 「子ども・子育て支援新制度移行について」	教諭 山口哲也
4	2015年 6月10日	枚方市私立幼稚園園長会研修 「子ども・子育て支援事業計画説明会」	園長 山口尚志 教諭 山口哲也
5	2015年 6月12日	大阪府私立幼稚園連盟青年振興部研修会 「愛真幼稚園見学 認定こども園について」	教諭 山口哲也
6	2015年 6月14日	幼児の発達のアンバランスさと発達障害	主任 秋吉由布子
7	2015年 6月19日	子ども・子育て支援新制度にかかる説明会	教諭 山口哲也
8	2015年 7月11日	発達が気になる子の基礎感覚を育てる支援教育	主任 秋吉由布子
9	2015年 7月22日 23日	第30回全日本私立幼稚園連合会 近畿地区教員研修大会	教諭 山口哲也 教諭 石元知沙 教諭 香西怜奈
10	2015年 8月01日	幼児期の発達障害のある子どもの理解と支援	主任 秋吉由布子
11	2015年 11月14日	大阪総合保育大学総合研究所発足5周年記念シンポジウム 「子ども・子育て支援新制度の今」	教諭 山口哲也
12	2015年 12月2日	大阪府私立幼稚園連盟京阪支部研修会 「子ども・子育て支援新制度について」	教諭 山口哲也
13	2015年 12月9日	枚方市研修会 「子どもの非行への理解と関わり方」	園長 山口尚志 主任 秋吉由布子 教諭 山口哲也
14	2015年 12月15日	大阪府私立幼稚園連盟青年振興部研修会 「認定こども園の移行について」	教諭 山口哲也
15	2016年 1月18日	平成27年度就学前人権教育研究協議会C（実践発表）友だちと共に育ちあうために（障がい理解）	教諭 山口哲也
16	2016年 1月26日	枚方市立幼稚園研修会 「幼児教育推進モデル園事業研究会」	教諭 山口哲也

第9節. 学校関係者の評価 9-1

学校関係者（並びに学校関係者・評価委員会）における意見・評価については、2016年3月初旬に、これを依頼し、その意見・評価を求めた。

下記にその意見内容を記し、これを公開する。

尚、学校関係者は、本園父母会役員並びに地域関係者諸氏あわせて25名を以て成し、意見・評価を依頼した。その評価は、24名の方より回答を受けた。

また、当該年度において、地域公人の方1名、本園理事会に報告する前段階として、本園理事1名（いずれも25名に含む）にこれを依頼した。学校関係者の名列はこれを非公開とする。

ご協力いただいた学校関係者諸氏に感謝申し上げます。

A委員 [No.1]

学校評価・自己評価ともに細かく設定され感心しました。特に、学級経営案の開示は興味深く読みましたが、子どもが話す日々の様子からは担任の先生は大変努力され、経営案・目標を達成されるべく行動されていると感じ、素晴らしいなと思いました。

園HPにある「のびのびで幼稚園を選ぼうか」、ここに尽きるなと思います。子ども達のいきいきとした笑顔、真剣に取り組む姿。園長先生をはじめとする先生方の日々の働きかけの賜物なのだと思います。

いつまでも子ども達のみんなが頑張れる輝ける可能性を守り、伸ばしてあげられる幼稚園であってほしいと願います。

B委員 [No.2]

具体的な目標があり、努力・実行されていることを大変嬉しく思います。ただ、行事が多すぎて先生方も子ども達も、こなすことでいっぱいになっているような印象も受けました。もう少し時間をとってじっくり取り組んだり、自由に遊ぶことも必要かなと思います。

C委員 [No.3]

自己評価について、とても細かく教育目標を設定されていることに感心しました。特に、27年度に重点的に取り組んだとある異年齢活動は年中・年長の役割をしっかり意識できていると感じます。

また、作品展も園児の製作の鑑賞の場として定着し、3部制や先生方による説明もスムーズで、親子共に楽しい時間を過ごせる文化的行事になったと思います。

こども園への移行等、国や時代の流れに苦慮するところではあると思いますが、青葉幼稚園らしさを守り、継続していったほしいと思います。

第9節. 学校関係者の評価 9-2

D委員 [No.4]

毎日子ども達がどのように園で過ごしているかを見ることが出来る「園日誌」を大変楽しみにしています。自己評価の内容は大変細かく分かれていて、妥当なものであると思いました。去年との比較があれば、なお見やすいと思いました。担任の先生から頻繁にいただける電話には感謝しており、子ども達のことをきちんと見ていただけていると実感しています。

この一年、まさに青葉幼稚園の方針通りのびのびと過ごさせていただきました。

E委員 [No.5]

教育方針はわかりやすく、強い意志が感じられます。先生方が十分に理解され、学年目標・学級経営案・自己評価等、教育に生かされていると思います。

学級経営案には、各先生方の意識や考えが示されていて、各先生方の考えが理解でき、保護者の安心と期待につながると思います。子ども達が毎日楽しみにしている幼稚園が先生方のこれらの熱意・努力・ご指導によるものなのだと改めて感じました。感謝しています。

青葉幼稚園の特色でもある異年齢活動においては、友だちへの関わりや思いやりを育む、とてもいい経験をさせていただいています。また、早朝保育・延長保育による幼稚園開園11時間という子育て支援、子ども達の普段見られない園での様子を知ることができる園日誌、行事での豊富な写真等、大変ありがたく今後とも続けていただきたいと思います。

これらのことから、学校評価・自己評価ともに良好で納得できるものと思います。今後とも子ども達が明るくのびのびと園生活が送れますよう、更なる飛躍を願っています。

F委員 [No.6]

各学年・各クラスにおいて細かく教育目標が設定されており、学期ごとに評価・反省をして、次の課題に向けて教職員の方々が共通理解のための話合いの場が設けられていることは評価できると思います。

ただ、昨年の教員自己評価と見比べてみますと、B評価からA評価に改善がみられたのは「日常業務についての項目」における『配布物を期日に配布している』という項目だけであったのは少し残念に思いました。B評価のものは昨年に引き続きB評価であるものが多く、中にはA評価からB評価へと下がっているものもあり、教職員経験の差異がひとつの原因とも考えられますが、なぜ昨年B評価だったものが今年もB評価だったのか、昨年の反省を踏まえてA評価にするためにはどういった工夫・努力がなされ、その結果どこまで改善でき、或いはできなかったかを昨年の自己評価を踏まえて記載があれば、もっとわかりやすいと個人的に感じました。

とはいえ、園に行くたびに先生方が子どもと同じ目線で関わって下さっているのを目の当たりにし、子ども達は『明るくのびのびした幼児の育成』という園の教育目標に沿ってご指導いただいていると実感いたします。

また、ほぼ毎日更新される園日誌により園での子ども達の様子を知ることが出来るうえ、過去にさかのぼって成長の過程を確認できるので親としては大変ありがたい思いでいっぱいです。

これからも子ども達にとって、よりよい環境を目指して笑顔溢れる幼稚園であってほしいと思います。

G委員 [No.7]

教育目標が細やかに設定され、先生方が向上心と熱意を持って子ども達と向き合って下さっていることが伝わり、保育の質の向上に尽力されている姿に敬服します。

異年齢保育やデイサービスでのお年寄りとの交流など、色々な立場の人との出会い・関わりを学べる点も園の魅力であり、子ども達に思いやりの心が育まれていると感じます。

青葉幼稚園の誠実さに感謝し、これからも大いに期待しています。

第9節. 学校関係者の評価 9-5

H委員 [No.8]

細かく教育目標が設定されており、毎年感心いたします。上の子が三年間通いましたが、園長先生をはじめ、素晴らしい先生方に囲まれ、沢山の友だちと出会い、沢山の体験を積み重ね、心身ともに健やかに成長することができました。教育面はさる事ながら、この三年間大きな怪我もなく通園し、安全面においても大変信頼できる幼稚園であります。教員自己評価（三段階評価）において、ほぼ妥当ではあると思いますが、一部こちらの見解と違う評価もありました。学校関係者の評価方法は文章で提示していますが、三段階評価も追記してはと提案します。幼稚園の内部をすべて把握していないと評価できない項目もあるので、保護者が評価できる項目をいくつか抜粋し、教員自己評価と学校関係者評価の評価に差異がないかどうか検討してみるのも、今後よりよい教育活動に活かせるのではないかと考えます。

I委員 [No.9]

とても細やかな目標設定に基づき、評価制度を毎年導入・公開されている点にととても感心しております。そして、子どもの実態に応じた学年、また、クラスの詳細な経営案にも、先生方が目標に向かって一年間かけて一生懸命子ども達に向き合い取り組んでくださった姿が目に見えました。それは、参観日や運動会、生活発表会などの行事からも感じられますし、毎日更新される園日誌での子ども達の表情をみても、真剣に向き合ってくださっているのを感じました。先生方が熱意を持って子ども達と関わり向き合う姿は、子ども達の心に響き、残っているものと思います。この熱意ある幼稚園を選び、本当に良かったと思っています。また、評価内容はとても納得できるものでしたが、B評価が昨年と比べて多い点に、現状に甘んずることなく、より質の高い教育を求めているらっしゃると感じ、さらなる幼稚園全体の発展に大いに期待しているところです。

J委員 [No.10]

学校評価・自己評価を一読し、くずは青葉幼稚園の幼児教育に対する揺るぎない情熱を感じました。保護者の機嫌をとるのではなく、あくまでも子どもの成長という一点に物事の判断基準を置いていると痛感しました。教員一人ひとりに対して、目標を設定させ、自己評価をさせるという点においては、教員の質の向上につながると思います。ただ、いき過ぎると教員を追い詰め、ゆとりを持って子どもと接することが出来なくなってしまうかとも思います。給食についてですが、教員ごとに子どもの苦手食材に対する対応にバラつきが大きいように感じます。子どもの中で不公平感が出ないようにして欲しいと思います。

教員が長期休む際、どんな形でいいので一報欲しかったです。教員のプライバシーもあると思いますが、園に対する不信にもつながりかねないと思います。最後になりますが、日々の先生方の努力とお心遣いには感謝でいっぱいです。建学の精神により子ども達を導けるよう、保護者も意識していけたらと思います。

K委員 [No.11]

学級経営案が細かく設定されていることに感心します。それぞれの子どもの個性がある中で、目標を達成していくことはとても難しいことだと思います。自己評価の「教職員間で子どもの共通理解・発達の確認がなされているか」では、どの内容においても十分達成されているとのことでした。情報の共有がしっかりされているからこそ、子ども一人ひとりの個性を認め、思いやりのある言葉をかけることができる。先生方が、子どもの個性を認めてくださることで、子ども達も先生の思いに応えようと頑張る。そのことが良いクラスづくりに繋がっていると思います。これからも子ども達の思いを大切にする保育をしていただきたいです。

第9節. 学校関係者の評価 9-5

L 委員 [No.12]

教員自己評価・幼稚園運営の自己評価、概ね適切であると感じます。教員自己評価項目J.業務全般の内容などは、大変正直に申告されている印象を受けました。ただ、第4節において記述の、保護者の不信感につながるような事態が数件発生した件について、自己評価結果への反映がなされていないのではと感じました。内部的に強化を図ったとの事ですが、再発防止策や次年度の評価基準への内容追加など、今後の改善方策が適切かを見極める必要性を感じます。

他園とも比較致しましたが、当くずは青葉幼稚園の運営においてこのような充実した評価をされていることは、保護者から見て大変信頼できます。今後もさらなる改善に向けての取り組みが適切であるかどうか、見守って行きたいと考えております。

M 委員 [No.13]

くずは青葉幼稚園の最も大きな特徴はやはり情報公開にある。まず、幼稚園でここまで頻繁に情報を更新したり、お知らせ等を発信しているところは聞いたことがない。更新頻度も毎日で、園日誌では日々の園児の様子が写真付きでよくわかるので、保護者としても安心できる。以前、日本全国の幼稚園の中で、ホームページへのアクセス数が日本一になったとお聞きしていますが、それもそのはず。

また、各行事後に検証のためのアンケートを取るなどしているが、こうした結果についても、一見公開には慎重になるようなこと（園への批判的な指摘等）も含めて全て公開している。こうした姿勢には、内容以前にまず信頼できる。どんな教育を行っているのかを公開できるということは、教育内容に自信があることの裏返しでもある。今後も自信を持って続けていただきたい。

また、教員の質が高いことも挙げられる。例年、入園予定児だけの登園日を作るなどして、担任ではない教員も含め入園児との接点を持つ取り組みをしていること等により、全ての教員が担任外のひとりひとりの園児のことをよく認識し、よく声かけなどもしている。

あくまでひとつの例ではあるが、こういう営みのひとつひとつが、ひとりひとりに目を向けた教育が行われていることの証左だと言うことができる。

さらに、理事長・園長先生のスタンスにも目を見張るものがある。自ら消防団活動や奉仕活動に取り組まれていることから、理事長・園長の立場でありながら、各行事では挨拶だけの登場で終わるのではなくて文字通り陣頭指揮を執っている。よくありがちな飾りのような存在ではなく、常に身を晒し、教育の最前線に立つその姿に、まさにそこで「教育」が行われているということの実感を持つことができる。

N 委員 [No.14]

とても細かに設定されていることに驚きました。年長・中・少だけでなくクラス毎にも目標があるのは良い事だと思います。各クラスの個性を伸ばしていけるのではないのでしょうか。

教員側の評価・幼稚園運営側の評価もとても高く安心できる内容です。教員側の評価、人間関係の部分でBがついているのが今後Aになれば子ども達もより楽しく不安なく通えるのではないかと思います。

園日誌等、こまめに更新されており、保護者側としてはとても子ども達のことを考えていただいている園であると安心しております。今後ともより良い幼稚園であり続けていただきたいと思います。

O 委員 [No.15]

自己評価について細かく設定されている事にとても感心しました。特に学年別・クラス別に自己評価されており、先生方の子ども達に対する熱心な想いが伝わってきました。

青葉幼稚園で行われている異年齢活動については、昔は地域の広場や公園で異年齢との関わる機会がありました。近年では異年齢の子ども同士が関わるのが少ないので、子ども達が相互に教え合い・学び合い、共に育ちあうことが出来ることはとても貴重な経験だと思います。

これからも青葉幼稚園で学ぶことができる教育環境を創っていただきたいと思います。

第9節. 学校関係者の評価 9-5

P委員 [No. 16]

いつもお世話になり、誠にありがとうございます。今回改めて、学校評価・自己評価を拝見させていただき、教育における高い目線でとても細やかに分析し、設定されていることにとても感心しております。

この度、長男がくずは青葉幼稚園でお世話になり、友だちや周りの人を大切にする思いやりの気持ちが強くなったように感じます。また、伸び伸びと子ども達を教育していただいたおかげで、個々の長所、個性も伸びたのではないのでしょうか。

それらは充実したイベントでの活き活きとした子ども達の様子から伺うことができました。毎日更新されるホームページの園日誌からは子ども達の楽しそうな様子や先生方の思いが伝わり、とても楽しみに拝見させていただきました。有難うございます。

Q委員 [No. 17]

近年、園児数が増え、より子ども達の成長のための教育環境の整備に邁進されてきたこと、自己評価をみるまでもなく感じています。早朝保育・延長保育を実施していただいている中で、手厚くみてもらっている安心感がありますが、先生方の負担が大きくなりすぎているのではないかと、心配に感じることもありました。

日常の保育の中では、子ども自身に考えさせるということをじっくり支えていただき、見守っていただけていることに感謝しています。

日々の園日誌の公開により園での活動についての家族の会話も増え、子ども達の成長を実感できています。これからも、沢山の情報発信を期待しています。

今後も「生きる力」を身に付けることのできる素晴らしい幼稚園であっていただきたいと思います。

R委員 [No. 18]

認定こども園への移行について、くずは青葉幼稚園としての現状や思いを含めて現行制度・私立幼稚園として継続が一番と思います。今後も「新制度のねらい達成に努力すること」とありますが、無理が生じないように精査して頑張っていただきたいと思います。

自己評価・学校評価の内容は妥当であると思います。毎年読ませていただきましたが、細かい内容で継続されているのは大変だろうなと思いました。でも、そのおかげで日々の保育が充実されているのだと感じました。ただ一つご配慮いただけたらと思うのが、劇遊び・生活発表会です。毎年、体調面も親は気を付けてはいると思うのですが、なかなか上手くいかないものです。せっかくの舞台ですし、思いっきり楽しんで誰かが休んだとしても大丈夫な位、練習ももう少し早めのスタートが、特に年長さんはセリフもありますので望ましいと思います。「最後までできない」とか不安な気持ちを持たずに本番を迎えられればいいのになと思いました。色々な調整も出てくるとはと思いますが、ご検討いただけると有り難いです。

最後に我が子ども達を見て思うことを。異年齢保育のおかげで「思いやる心」が生まれ、本当に嬉しく思います。幼稚園が子ども達にとって良い教育・環境でありますよう願います。



第9節. 学校関係者の評価 9-5

S委員 [No. 19]

幼稚園（学校）評価について、平成15年度より統一した評価、基準設定、それに基づき自己評価実施し、教育水準の質の向上を図る。自己評価内容の改編の2回に渡る改訂とあるように各項目において、こと細かくこれだけのことを配慮している園が他にあるだろうか。

子ども相互の「ふれあい」を大切にして教育環境の大切さ。「たくましく人間性豊かなこどもを目指す」この教育指針の適確さ。このような園で伸び伸びと知らず知らずの人間形成の根となる土台を養っていける子ども達の姿こそ、世間一般も認識するべきだと感じた。

認定こども園の移行に関して、現行のままの私学、幼稚園として取り組む決断・・・大切なことだが、一番失われようとしている「心の問題」「子どもの心のつながり」「礼儀」等、ともすれば親子でも忘れがちな心の根底を、園長が身を持って実践し、取り組む姿は本当に素晴らしい貴重な教育者だと、拍手を送りたい。

T委員 [No. 20]

自己評価の細かさに感心します。このことから子ども達に一生懸命向き合っていて接して頂いていると感じます。どの行事においても、子ども達が主役であると考えて下さっていること、保護者としてありがたいことと思います。

幼児専用車の寄贈は受益者負担があるが、子ども達の安全面からとても良かったと思います。

U委員 [No. 21]

各学年で達成目標を掲げ、先生方が自己評価なさっている点は、厳しいのではと感じる程であり、これほどまでも複雑な視点から子どもと真摯に向かい合っていて下さっているのだと感服しました。

園の様子を細やかに伝える園日誌は、なされている保育を保護者に可視化されるものであり、保育指導内容に自信があつてこそだと思われます。

異年齢活動では、年長学年で圧倒的な成長が見られ、最年長児としての自覚が充分に育まれており、いたわりの心や粘り強さを養っている。

友だちと「遊ぶことに夢中になる。」ことを大切にしてくださる幼稚園であり続けてほしいです。

V委員 [No. 22]

とても細かく誠実に自己評価されており、すばらしいと思いました。教育目標の「明るく伸び伸びした幼児の育成」これこそ私が青葉幼稚園に期待するテーマであり、目標の達成へ全職員の努力の姿勢を自己評価を通して拝見でき期待できると感じました。自己評価でBとされていた内容に関しては来年度に期待いたします。

泥んこ遊びや音楽に触れる楽しい園生活がさらに充実し、クラスのお友達や異年齢での触れ合いを大切に、園と保護者との意思疎通がスムーズに進み、諸事象の説明対応が適時滞りなく行われることを望みます。

最後に職員関係者の皆様が健康に留意し勤められるよう願います。

第9節. 学校関係者の評価 9-5

W委員 [No. 23]

自己評価・学校評価ともに細かく目標設定がされていて、日々の活動目的や目指しているところが伝わり安心して子どもをお任せすることが出来ると改めて思いました。

通園バスの園児の乗車ミス・園児引渡し時の安全確認等、安全面での事案が数件発生したとのこと。非常に残念ですが、情報を公開したことは評価できると思います。二度と起こらぬよう徹底していただきますようお願い致します。

良いところはそのまま継続し反省点は来年度に活かして、子ども達がより楽しく過ごせる園であってほしいと思います。

X委員 [No. 24]

学校評価、自己評価ともに的確に評価されていると思います。とても細やかに目標を設定されており、その目標に向かって先生方皆様が日々子どもたちのために努力されていることがよくわかり、感謝しております。今後も子どもたちにとって大好きな幼稚園であり続ける様、わたしたち保護者も協力し合い、お手伝いさせて頂きたいと思います。また、認定こども園への移行をせず、現状のまま存続されるというご方針ですが、在園児保護者ならびに入園を希望、検討される保護者の方々に安心を与えたいと思います。今後も更なる保育の充実を期待しております。

以上、学校関係者24名の方の評価・意見を公開します。

2015年度／平成27年度

くずは青葉幼稚園 学校評価・自己評価について

以上の通り、公開します。

併せて「認定こども園移行」に関しての見解を表明します。

2016年4月1日

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

園長 山口尚志



学校法人山口学園

2015年度／平成27年度 くずは青葉幼稚園・学校評価

〒573-1102 枚方市北楠葉町38番1号

電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944

http://www.k-aoba.ed.jp/ Mail address info@k-aoba.ed.jp

2016年4月1日発行 本書は43ページを以て成し、「学校関係者の評価」以外の文責は園長・山口尚志であることを記す。